明治三十八年九月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年三月二十八日

私立大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章(きしやう)を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會(しうくわい)に出席する場合は勿論襟止(えりどめ)兼用(けんよう)の便あるを以て成るべく平素(へいそ)佩用(はいよう)して廣く本會の普及を圖るを要(よう)す

第三條　本會徽章(きしやう)は右の實價(じつか)を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁共二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁共二分一以下同之

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　田中德三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人　渡邊智

明治三十八年八月二十二日印刷及發行（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第百八拾九號

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷

明治三十八年九月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百九十號目次

十月本會例會

暑氣の爲め暫らく休會致し居候處秋冷の候に相成候間　來**十月七日**第一土曜日午后**正一時半**より例會を神田區一ッ橋通女子職業學校內に開き候講師演題等は追而東京會員へは御報導可仕候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也　演題講師等は追而御報導可申候

明治三十八年九月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならすや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改良育兒及看病法等の如きは最も緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相競て起り婦人も漸く其の面目を改めんとするは寔に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意をなすものゝ如くまことに口惜しきことなり因て茲に頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉に告げ其賛成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（會員證の概を末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるへし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同く但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返付せず●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に推出するものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之[illegible]

[illegible]●第二十條　規則の改正其他重要の件決定のこと●第廿一條　前年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概況會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會計の收支は總て會計の仕拂は幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會　●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得[illegible]

[illegible]錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送致として別に返信料を添へらるべし（郵券送一錢附）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便局）へ振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三紀子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦教子

評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武類枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋榮子
仝　田村きよ子
仝　相馬陸子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮木樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

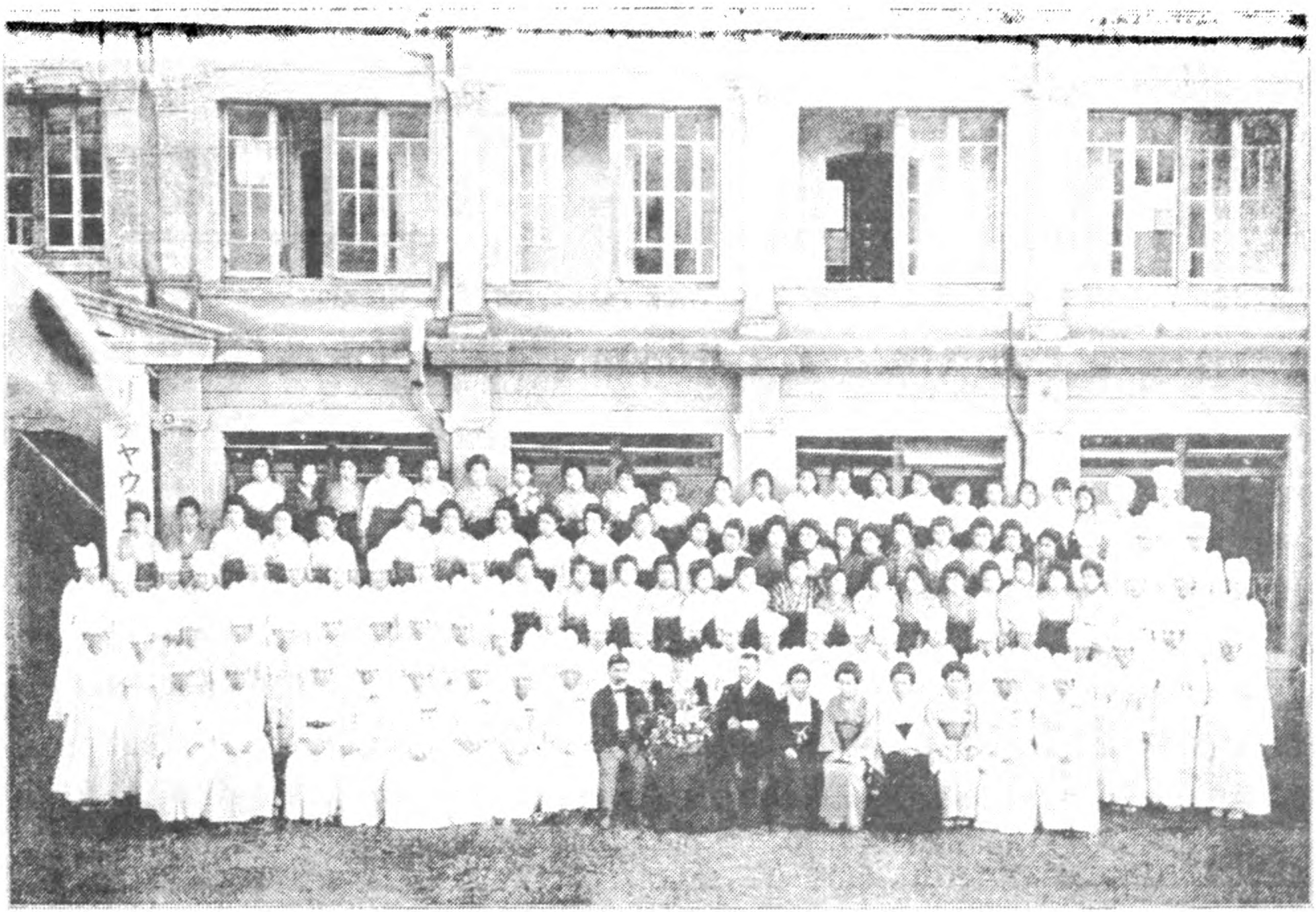
（●は本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
大[illegible]赤十字[illegible]　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　●磐瀨雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　秋原四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原輝之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
步兵中佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　●大西秀治君
醫學博士　●入澤庸太郎君
一等藥劑官　恩田正信君
醫學士　●若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上邦誠君
醫學士　●櫻田勉一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
[illegible]　高橋五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　●高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●山村光順君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●水山彦郎君
三等軍醫正　●星野孫光君
醫學士　●宮本叔君
一等軍醫　●橋井忠隆君
大日本[illegible]會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部[illegible]男君
藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●中濱東一郎君

醫學博士　●黒田玄通君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松[illegible]三君
醫學博士　●[illegible]川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　山川春二君
醫學士　●丸茂文貞君
衛生試驗所技手　●丸山喜四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
[illegible]島　小泉官君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顕君
臺灣民政長官　●後藤新平君
元東京大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺田[illegible]君
醫學士　●寺田[illegible]君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井[illegible]君
ドクトル　[illegible]君
高崎醫會長　●土谷[illegible]次君
産科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田[illegible]君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　淺田[illegible]君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山[illegible]六君
高崎　秋田聰太郎君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　●櫻井恆次郎君
醫學博士　●桐淵鋭次君
醫學士　●北村精造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●[illegible]作吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓樹君
醫學士　●道川德君
醫學博士　●木村德衞君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●矢[illegible]秀三君
ミセッス　●ヒウース
ミセッス　●コーツ



リチャードソン夫人歡迎會　中央ニ夫人其右ガ次ニ山根醫學士

婦人衛生雜誌第百九拾號　（明治三十八年九月二十日發行）

名家演壇

小兒保育談　（於本會）

醫學博士　三輪信太郎君演說
佃速記事務所　凡速記

今日御歷々の方々の前に一言致しまする仕合を得ましたのは私の光榮とするところでございます、私の演題は小兒保育談と致しましたが、小兒保育談は私の持合せのものであつて之をお話すれば數時間もつゞけることが出來るであらうと思ひますけれども、併ながら只今岡田君の歐羅巴からお歸りになつた土產話があつた後でございますから、下手な話は止めて、短く切上げた方が皆樣への御奉公であらうと思ひますから短く切上げて、小兒保育法を誤ると如何なる結果を來たすかと云ふことを申上げたいと思ひます、私の申上げますことは一年以內の小兒に付て、保育の方法を誤るとどれ程恐るべき結果を來たすか、其結果の如きに至ては御不自由なくお暮しになる方々には少しも思寄らぬことがございます、故に今日私が其保育法を誤つて慘憺なる病態に陷つて居る子供の爲に代つて其狀態を申述べやうと思ひます、

それで保育の方法を誤ると其結果として來るのは小兒萎縮症でございます、此小兒萎縮症のことに付ては、私は度々お話したことがありますが、小兒は御承知の通り保育其宜しきを得て能く發育を遂げます、場合には小兒を持たない者にも愉快な念を起させます、況や小兒を持つて居る者に在つては、其小兒が金太郎のやうに肥つて能く發育して居るのを見ると、何とも言へない念が起る程愉快なものであります、それで萎縮症は此反對で、花ならば段々花が咲いて往くものがそれが凋んで仕舞うので實に憐れな事柄でございます、然るに頃日、結核や梅毒などは、

之を是非撲滅しなければならぬと唱へて多くの學者が色々講究致されますが、此小兒萎縮症に付ては論究せらるゝ方は殆どないやうであります、或は又日本の醫學を支那に傳へる同仁會と云ふやうな結構な會もあり、又動物を保護する會も起つて居りますが、夫等のことは皆結構なことではございますが、小兒の萎縮症を救ふと云ふ念を浮べる方は少ないと云ふことは、其萎縮症に罹つて居る小兒の爲に如何にも悲しく思ふことでございます、それで小兒の萎縮症に罹る原因は、或は結核とか梅毒が原になつて萎縮する、或は其外の原因に依て萎縮するのがありますが、其邊迄論究せずして單純に營養の方から述べますが、生れたての子供が親の乳或は乳母の乳に依て育つということは是は天然の營養の道でございますが、是を爲すことが出來ないと云ふことから起る場合のみを此處に申上げやうと思ふのでございます、

私は今からして七八年前に歐羅巴へ往つてさうして伯林の大學小兒科部教室で助手になつて働いて居りましたが、其時分に初めて病歴を見ました時に unehelich ウンエーヘリヒと云ふ言葉に出會ふて驚きました、此ウンエーヘリヒと云ふ語は正當の結婚に依て生れた兒でないと云ふことを意味して居るのであります、歐羅巴の大學に於ては施療病者として其施療室に這入る小兒は多くはウンエーヘリヒ——正當の結婚を經ずして出來た小兒でありますが、如何にも憫然なもので何れも萎縮症に陷つて居ります、夫等の親は萎縮症が癒つて圓々と肥つて再び自分の手許に來ると云ふことを希望して居るのではないのです、寧ろ長い間病院に置いて貰ひたい、自分達は己の小兒に付ては生死共に與り知らざるを望むと云ふ稍不幸なる小兒であります、それで歐羅巴でさう云ふウンエーヘリヒの小兒が澤山出來るのは、貧福の懸隔に因するにあるのか何うか知りませぬけれども、兎に角同じ雇人であつても歐羅巴は御承知の通り人權を重んずる處でありますから、雇女で

も日本のやうに卑みは致しませぬ、日本では下女と云つて「下」の字を付けて居りますが、歐羅巴では何さん何さんと云つて居ります、所で其雇はれて居る女は金を拵らへて奇麗な衣服でも着たいと云う念起り夫には乳母となれば給金殖へ且は自分の慾を充たす爲めに正當の方法を經ずして結婚をするものが多くあるからウンエーヘリヒの小兒が澤山出來るのであります、

それで翻つて日本の方は何うであるかと申しますと、日本でも隨分さう云うのもありますけれども、併ながら正當の結婚をした者でも勞働者や低い官吏などに在つては自分の小兒を正當に保育して往くことが出來ない、如何にも憫れな狀態に陷つて居る者があります、貧乏人になりますと乳を飲ませずに母親が外へ出て働いて居りますが、そこで其小兒は何うするかと云うと乳粉でも飲ませる、牛乳は母乳の代用品として宜いのでありますが、貧乏人は牛乳を買うことが出來ませぬ、譬へば日に一合から五六合飮むとして殺菌牛乳ならば一合五錢――細かい勘定をするやうでありますが、それを四合飲ませれば二十錢、六合では三十錢となりますから今日勞働者の賃錢が增して居るにしても、三十錢づゝ小兒に掛けることは何うも出來ないのであります、私が目今大學にて、外來患者に牛乳は是々飲ませなければ可けないと言つて聞かせると、ハイ其通り致しますと口では言うけれども扨其小兒を目方に掛けて見ると更に肥らない、それでは可けないから斯うなさいと丁寧反復するけれども實際結果が顯はれない、それで已を得ない時は入院もさせますが、今のところ大學の施療室丈では萎縮症に陷つて居る小兒を十二分に收容することが出來ぬのであります、之に反して歐羅巴ではさう云ふ者を救濟する道はちやんと立つて居るのであります、是も肺病とか梅毒などが土臺にあるとか又は其他の疾病があつて衰弱して居るのなら如何とも仕方がないのでありますが、其取るべき營養を與へずして萎縮症に陷らしむるのは如何にも

氣の毒なことではございませぬか、併し萎縮症に陷るも畢竟貧乏に生れたから其者の不運であると斯う冷淡に言へばそれ迄のことでありますけれども、さう云う考を起さないで成るべく之が救濟する道を講じたいのであります、

それで私は小兒萎縮症と云うものは何う云う狀を呈して居るものかと云うことを申上げましたならば、成程氣の毒だと云う御考が起るてあらうと思ひますからちよつと其狀態を申上げますが、萎縮症に陷つて居る小兒は如何にも非常な姿になつて居るのであります、母親が其小兒を病院に連れて來るのを見るに、其顏は骨立つて居りまして上から下へ尖つて居り、一年前の小兒では頭の顖門の處が菱形にピッシヤリと凹んで化骨しない、其外彼方此方の骨が重なり合つて居る、それから眼の周圍口の周圍は縱横に襞積を以て疊んで居る、眼は凹んで居つて人を凝視る時は怨めしさうな顏をして見る、それから顏の色は土色で蒼くなつて居る、骨相學者でなくとも誰が見ても老人の顏をして居る、生れて間もない小兒が老人顏になつて居る、聲は嗄れて居る、何うもそれだけ見ても氣の毒に思ふのです、それから裸體にして見ると全身皺だらけで肋骨が數へ立てることが出來るやうに瘦て居る、それから臀部股の邊の肉は垂下つて居る、引張つて摘み上げることが出來る、丁度虎列剌病の後で身體の水分が無くなると、斯う云ふ風に身體の皮を引張つて見ると摘み上げることが出來る、私は虎列剌に罹つて居りませぬから摘み上げることは出來ませぬが、さう云う風に摘み上げることが出來ます、それから手足の先は冷めたいがお腹だけは非常に大きい、他の處は瘦せて居りますがお腹だけ肥つて居る、是は尋常で肥つて居るのではない、皮膚が透通るやうに薄くなつて居る、さうしてお腹が大きくなるのはお腹の中には腸管がありまして、其腸管が健全のものなら縮括つて居りますがそれが縮りがない、譬へは一寸位擴がるものと假定すると二寸にも三寸にも擴がつて居つてそれ

を締括つて往くことが出來ない、それでお腹が薄くなつて大鼓のやうになるのであります、併し是等はまだひどくない方であります、ひどいのになるとお腹の皮の色が眞黑になつて非常に引込んで仕舞ふ、それから弱り眼に祟り眼で股の周圍とか腋下とか頸のあたりが爛れる、さうして仕舞ひにさう云ふ所から丹毒の如き惡い病が這入つたり、それから身體が弱つて居りますから風を引いて肺炎に罹つたり、或は其他色々の疾病に罹る、營養法が少しても惡いと直に急性の下痢を起して雪の消へるが如く死んで仕舞ふと云ふやうな氣の毒な譯になるのであります、總て斯う云ふ病になりますと脂肪が悉皆無くなつて仕舞ひます、オールミユレル氏の試驗した結果脂肪の九十九プロセントは無くなつて仕舞つて居るのであります、斯う云ふ風に脂肪が無くなつて肉は瘦せ上へ皮を冠つて居るのでありますから、宛然大きなマンテル――父親のマンテルを着たやうな始末に見える、實に憫れな有樣であります、若し私の言ふことが誇大的であるとお思ひになれば、之を證明する爲に病人を連れて來ると私の言ふことが決して嘘でないと云ふことが分かるのであります、それで小兒がさう云ふ風になりますのは、是は小兒に罪がある譯ではありませぬ、小兒が怨めしさうな顏をして、それから悟つたやうな老人顏をしてジロリと私共の顏を見る時には、お前私の爲に何うか之を訴へて呉れろと言ふやうに見へるのであります。唯だ空言を吐いて居るのではありませぬ、自分は出來得るだけ盡したいと云ふ心は始終持つて居るのであります、兎に角さう云ふ者のあると云ふことを御承知置を願ひたいのであります、私は別段さう云ふ者の親から賴まれた譯ではありませぬけれども何うも賴まれたやうに思ふ、それで倘此會の方々に申上げて置きたいことは、慈善會とか何會とか色々な會を組織せられてそれ〲お盡しになるのは誠に結構なことでありますが、未だ今日迄斯う云ふ氣の毒な者を救濟することに力を用ひて居る方はないやうでございま

す、それで今日私が皆さんの前にてお話する光榮を得ましたでございますから遠慮會釋なく申上げた次第でございますが、何うか私のお願申したいことは別段私が斯う云ふことをするから斯う云ふことに力を注いて戴きたいと云ふのではなく、皆さんの中にも私の申したことに幾分か眞理があり如何にも氣の毒なものであると思ひなさる方がありましたならば、御自分でさう云ふ憫れな者を救濟して戴きたいのであります、譬へば只今申上げました小兒萎縮症、それから先天性梅毒、是も親達の不品行から起つて來る病氣で是等の者を集めてちやんと養育を十分にし、醫者に監督を頼んで——勿論醫者ばかりでは可かぬ、看護などは婦人の手を借らなければなりませぬ、是等の小兒を十人なり二十人なり集めて乳母を置くとか牛乳をやるとかしたならば、是等の不幸なる小兒は將來國家の役に立つ立派な者になるであらうと思ひます、さう云ふやうにするのも皆さん立派な方々の手で出來ることとであらうと思ひます、又さう云ふ方々は皆なさう云ふことをなさるべき責任があると思ふ、それで私共は不肖な者ではありますけれども、自分の出來るだけの力を盡したいと思ひまして、何時でも立派な方々を捉へますと——捉へると云つては失禮ですが（笑聲起る）お目に懸ります毎に、何うかして下さいとお願ひして居るのでありますが、今日も其萎縮兒に代つてお願ひした次第でございます。



大家談叢

●水と衛生

（衛生局防疫課長野田醫學士談）

▲戰勝と衛生　皇軍の連戰連勝は　至尊の御稜威と我將卒の忠勇とに因るは勿論なれど倘陸海軍の衛生設備極めて完全にして戰鬪力に殆ど毫厘の損害なき

こと亦其一円たるに相違ないと思ふ、衛生上改善を要すべき問題は水、下水、住居、衣食を首めとして工場、市場、救貧、慢性傳染病等多々なれど先づ第一に述ぶべきは

▲水の問題　である何となれば水は一般の衛生上至大至廣の關係あるに拘はらず未だ此問題の解決を告げざる地方頗る多く爲めに赤痢、腸窒扶斯等の傳染病其跡を絶たざるのみならず慢性諸病を誘發して其地方の死亡率を高めつゝあり殊に本年の如きは恐るべき虎列剌病の襲撃殆んど眼前に迫り居れば防疫上並に一般衛生上大關係ある水に就て卑見を述ぶるは蓋し時機の當を得たるものと思ふ、此事を述ぶる順序として先づ第一水が如何なる程度に於て我々の生活に肝要であるかと云ふことを述べ第二に此肝要なる水が如何に重大なる關係を衛生の上に及ぼすか即ち如何なる害を我々に與ふるかと云ふことを述べ第三に水の効用をして少しも我々が害を蒙むることなく之を全からしむるには如何なる方法を講ずべきかと云ふことを述べ終りに水を改良した爲めに衛生上及經濟上に及ぼす効果の如何に至大なるかと云ふことを述ぶる考へである、第一

▲水が生活に必要　なることは一通り何人も知つて居ることであるが其重要なる程度を示すために生理學上から水の効用を述ぶれば元來我々の身體の成立を分析するに其六十四プロセントは水から成立つて居る即ち體量の凡そ三分の二は水から出來て居るので例へば十五貫目の人は其十貫目まで水である、あとの殘り三十六プロセントは之を小別すれば蛋白質が凡そ十六プロセント、脂肪が十四プロセント、灰分が凡そ五プロセント、含水炭素に屬するものが凡そ一プロセント、此五種類の物から人間が成立つて居る而して人間が生活を持續するには生理學上に所謂新陳代謝と云ふ機能があつて新らしき物質を體中に取り之を分解して生活力に變じ其廢物を體外に出すので即ち蛋白質は尿素となり脂肪、含水炭素の如きは燃燒して炭酸となりて外に出て居る又水も尿

として毎日二十四時間には千五百瓦(七合五勺)内外を排泄する尤も寒暑に依つて多少分量に違ひはあるが、糞便にも水があり又肺臟及皮膚から排泄する水分も殆んど小便と同量である即ち一日に體外に水を出す量は平均二千瓦乃至三千瓦で之を日本の量に直すと毎日一升から一升五合の水を外に出して居る、就ては新陳代謝の機能を全からしむるには日々外に失ふだけの量を身體に攝取しなければならん此理に基きて生理學上に人間の保健食量と云ふものが左表の如く定まつて居るのです。

保健食量

	西洋人(七四基瓦)	日本人(五二基瓦)
蛋白質	一一八瓦	九六瓦
脂肪	五六瓦	二〇瓦(四五瓦)
含水炭素	五〇〇瓦	四五〇瓦(四〇六瓦)
鹽分	三〇瓦	同上
水分	二〇〇〇乃至三〇〇〇瓦	同上

此表の中に括弧を以て示せる數字は日本人は脂肪食には餘り慣れて居らぬから體重に比例して計算すれば脂肪は四十五瓦、含水炭素は四百六瓦になる筈なれど四十五瓦の脂肪は日本人に取つて多過ぎる故に之れを二十瓦に減じ殘り二十五瓦を含水炭素に直して償つたのである、此表を見れば五種の營養品中最も入用なるものは即ち水であることが判明する、蛋白質なしに人間は生活することは出來ぬ又脂肪、含水炭素等なくして生活することは出來ぬが殊に水は最も必要なもので其分量も最も多く要する、有名なる生理學者ボッペ、ザイレカ氏が『生活體は水なしに働くこと能はずと』言はれたのは實に千古不拔の格言である。

▲水を失へば病死す　我々の生活上一日も水を無くすることは出來ぬので例へば現在我々の體内に在る水分の一割を失へば則ち病氣になり若し二割を失へば則ち死に至る、虎列剌患者が眼が凹み身體が瘦せ衰へ手足に痙攣を起し又絲の如き脈を搏つやうになるのは即ち劇烈なる吐瀉のために身體の水分を失ふ故てある、此の如く水は最も必要なるもので是非

共日々一定の水量を身體內に取らねばならぬ、併し水其物としては二千瓦乃至三千瓦を取るに及ばぬ、通常水其物としては一千瓦乃至千五百瓦でよい何となれば其殘り半分は他の食物に依つて知らず識らず取つて居るからです、今二三の食物の分析表を掲げて見やう

食品分析表

	水	蛋白質	脂肪	含水炭素	鹽分	木材素
肉（獸）	七二、八七	二〇、五八	三、七二	一、六九	一、一四	
肉（魚）	七四、〇八	一八、一二	四、六〇	一、七〇	一、五〇	
卵	七三、六七	一二、五五	一二、一一	〇、五五	一、一一	
牛乳	八七、四〇	三、六〇	三、七〇	四、八〇	〇、七〇	
米	一二、一〇	七、九〇	〇、九〇	七六、五〇	一、〇〇	
野菜（甘藷）	六六、二八	一、三五	〇、一九	六、六三	〇、九三	二、四八
野菜（冬瓜）	九七、四二	〇、二六	〇、〇二	一、七二	〇、二三	〇、三五

右に示す如く肉類の中にも水は七十四プロセントを含み、卵にも同じく七十四プロセント位、牛乳には凡そ八十七プロセント、又堅き米にも十三プロセント位水を含んで居る、米を炊きて飯にすれば丁度元の形の三倍以上に膨脹する、其膨脹した容積は總て水分である．野菜類は種類に依て違ひはあるが多いのは九十八プロセント、少いものでも平均六七十プロセント位の水分を有つて居る、斯う云ふ食物に含んで居る水分は其物質と共に知らず識らず我々の體內に取り他の半量を水其物として即ち湯、茶、麥酒、珈琲などから取つて居るのである、昔の戰爭で敵の軍隊から圍まれた城兵が水の不足のために苦しみ小便を飲んだと云ふ例があるが實に水と空氣とは我々の生活上須臾も離るべからざるもので若し之が多量でなく他の食物の如く價あるときは我々は水に向つて多額の代價を拂はねばならぬ譯だ、昔の人民が水草を追ふて移り今日世界各國の都市が必ず河海の傍に沿ふて居るのは政治上其他の關係もあれど一は人民の生活上必要缺くべからざる水を得るの爲めである、此の如く水は偉大なる効用があるから水が生命であるが生命が水であるが生命と水との輕重は殆んど知り難い程である、然るに多くの人々は遺憾ながら

▲水の性質を撰擇　すると云ふ考へが乏しい他の食

物に付ては例へば臭氣を發する肉類は食はず古くなつた牛乳は飲まぬと云ふが如く嗅感、味感、視感に依て其の品の良否を判定することの出來る程度まで食物の撰擇を行つて居るが水に至つては其良否一見して知り難い場合多きが爲めか他の食物ほどの注意を拂はない、併し水は前陳の如く他の營養品より多量に用ひつゝあれば夫れだけ多くの注意を加へねばならぬ道理だ、多くの人々は今日の有樣では大便や小便の混じた水を飲んだり又溝渠の不潔物の混じた水を飲で居る實に驚くの外はない、其他水は

▲使用水　として矢張我々の生活に缺くべからざるもので即ち身體を洗滌するにも衣服及び器具類を灑ぎ淸めるにも總て水の力を借らねばならぬ若し我々が身體は勿論衣服、器具などを不潔にするときは爲に病を起し死に至ること疑ひない、即ち水は第一飲食の爲め第二使用の爲め直接我々生活上に至大の關係を有つて居る、然らば人間は一日に凡そ幾何の水を要するかと云ふに大人小兒を通じて直接必要なる水量は平均一人二斗である、今之を其用途に依つて區別すれば

一日一人の狹義需用水量

飲用	一、五リーテル（一リーテルは約五合）
炊用	七、〇リーテル
灑掃用	八、〇リーテル
茶汁用	二、五リーテル
沐浴用	一三、〇リーテル
洗濯用	八、〇リーテル
合計	四〇、〇リーテル（約二斗）

併し此表は一日一人の狹義需用水量を示したもので尙廣き關係に付て言へば此外に水の需用は例へば水車、水力電氣、水灑場、製絲場等凡て水の力を要する又街路を淸めるにも火災を防ぐにも水でなければならぬ、此の如く廣義需用水量を一人の頭に割當てるときは百三十リーテル即ち六斗五升を要する譯であるから河水の國の水道工事でも一人一日の量を六斗五升少くも五斗位に見積つて設計する、以上は水の主なる効用に付て述べたのです

▲水の害　前回までは水の偉大なる効用を述べたが

是より此水が又我々の健康上に非常なる危害を與ふることを陳述しよう、水の害の中で最も恐るべきは或る種類の傳染病を蔓延させることとて、即ち彼の赤痢、亞細亞虎列剌、腸窒扶斯などの傳染病の流行を科學的に調査するときは常に水が其蔓延の主因になつて居る、而して其病毒を蔓延せしむる水の種類を分てば第一河水並に一般の流水、第二堀井戸即ち地下水である、曾て明治二十五年獨逸のハンブルヒ市に於ける虎列剌病大流行の原因は其市中を貫流せるエルベ河（市民は此河水を飲用にも使用にも供して居る）の上流に初發虎列剌患者の吐瀉物を放流した爲めである又日本にても虎列剌、赤痢の流行は全國各地大小の河水其媒介を爲した實例が多い、又堀井戸の水所謂地下水が傳染病流行の原因となるのは、地下水と雖も決して靜止せるものでなく一晝夜には平均一間若くは一間半の位の速力で水平に矢張運動しつゝありて丁度速力の遲き河水と看做すことが出來る、それ故に若も一軒の井戸の水に病毒が侵入すれば隣家の井戸にも流れ込む虞がある、又井戸の水は直接に其中に病毒を拋棄せずとも間接に即ち土地の媒介に依て病毒の加はることが多くある、其理由は土地の表面は概して不潔で深部に行くに從つて其性質が善くなる故に惡疫の流行するときは土地の表層には病毒繁殖して居るが深層には侵入することが少い

▲井戸は深きを貴ぶ　即ち深い井戸には病毒の混入することと少く淺い井戸には多い又水の性質に付て言ふも一般に深い井戸の水は善良て、細菌の數も少く且其溫度も其土地の一年の平均の氣溫を備へて居る、土地の溫度と云ふことに付て序に一言すべきは、土地の表面より三尺三寸程深くなると一日の溫度の差殆んどなく、一丈程の深さに至れば一ヶ月の溫度の差消滅し、又五間程の深さに達すれば一年中の溫度の差僅に攝氏の一度二度位になる、尚進んで十間以上の深さに至れば一年中の溫度の差全く無くなつてしまう、それ故に五間以上の深き堀井戸の水は春

夏秋冬殆んど同一の温度を備へて居る、東京は一年中の最も暑い時は攝氏の三十二度六分位で最も寒い時は氷點以下七度九分位であるが之を一年中に付て平均すれば攝氏の十三度八分位に當る、深い堀井戸の水は即ち此十三度八分内外の温度を常に有つて、何時も冷たき水であるから縱令病菌が侵入しても水質善良、清潔で有機物の如き極少量なる爲め到底此中では繁殖することが出來ぬのみならず、生活力の弱き細菌なれば數日にして却つて死滅する位てある、斯う云ふ總ての關係で深き堀井戸の水を用ゐて居る土地は今日までの經驗上虎列剌、赤痢、腸窒扶斯の如き惡疫の流行することが少い譯である、之に反して淺き井戸の水質は土地の性質と凡そ比例して不潔で有機物も多量て、バクテリヤが多いとか甚しきは大小便の一部が竄入して居る、又温度も殆ど空氣の温度に伴ふて變化する、惡疫の多く流行するは夏秋の季節で水の温度も温かの時であるから若も病菌が侵入すれば忽ち繁殖して僅の間に初めの百匹か二百匹が數千萬、數千億になる、今日迄淺き堀井戸のある地方に赤痢コレラ腸窒扶斯等の流行したのも決して偶然でない

▲水は傳染病の媒介　一般に水は種々の不潔物を混有する場合多く極端に言へば惡疫流行の際には總ての水の中に病毒が混じて居るものと看做して差支ない、赤痢、コレラの傳播が集會、交通、不潔の食物、患者との同居等に原因する場合もあるが多くは是れ第二の原因で溯つて其第一の原因を追究するときは其大多數は水に歸する、尚他の傳染病に就ても例へば間歇熱、脚氣、ヂストマ、惡性水腫、炭疽熱、肺結核等の諸病も矢張土地の不潔濕潤即ち水の不良なる所に好んで流行する、其他水の營養上の地位よりして不良なる水で養はるゝ人は身體の發育亦從つて不良で知らず識らずの間に種々の害を受けて居る現に水質不良なる地方の死亡率は全國の平均死亡率千人に二十人内外なるに二十五人乃至二十七人と云ふ統計を示して居る其關係頗る顯著なりと謂ふ

べしだ云々

●實驗上の育兒

左の講話は醫學博士瀬川昌耆氏の説かれたるものにして報知新聞紙上に連載されたるが頗る有益のものなれば茲に其一部を借用して轉載することゝしぬ

博士は人も知らるゝ小兒科の大家で既に七人の小兒を擧げられ育兒上豫ての意見を實行せんとの考へにて下婢の手を借りず又乳母も子守も置かず悉く博士夫妻の丹精をもつて幼兒より次兒と益々經驗を積み七人の多きに及べる愛兒を恙なく養育された實地經驗家にて左に掲載の分は何れも學説と經驗と相待ちたる説明にして育兒上の得がたき好資料なり

▲育兒智識の缺乏　育兒上のお咄しに入る前に特に親々方へ御注意致して置く事がある、先づ第一は育兒に對する智識の缺乏である、一旦女子が嫁入して母親となる前には小兒の育て方を是非一通り研究し置かなければならぬ、近來高等教育を授ける女學校ては裁縫料理刺繍等の學課に重きを置き卒業後夫れが實地に活用する、是れは誠に女子教育上喜ばしい進歩であるが是等の女子が家庭を作り小兒を産けた場合になつて尙不自由を感じ差當り當惑する事の出來るのは育兒の智識缺乏である、シテ見ると育兒法は裁縫や料理の家政科と相並んで充分に修養する事は女子教育の實地問題として重きを措かなければなるまい、殊に今は古と違ひ社會は益々複雜で病氣などは昔し日本に名も聞かなかつたものが今では澤山流行するやうな時節だから、完全に哺育するには充分夫れに應ずる丈けの智識を蓄へ置かなければならぬ、斯く育兒の智識を備へてすら小兒が産れて實地の場合に當ると修養した丈の智識ではまだナカナカ物足らず勝手の違ふやうな事に澤山出逢ふから、若し研究して置かなかつたら何んなに狼狽する事が生ずるか知れない「子供は構はないでも自然に育つものだ」抔と野放しの獸物ではあるまいしソンな悠

氣な事を云つて居ると飛んだ大間違ひを來し、不幸にして病氣に陥つたとき、救助る小兒迄も殺して仕舞ふやうな不慇な事になるから其の時悔んでもモー間に合ひません

▲缺點多き育兒書　第二には育兒上の書物に缺點のみ多い事です、折角育兒の學問を修める場合に缺點のみ多い書物を見ては徒勞に屬する斗りでなく却つて夫れが爲め往々哺育上の弊害を惹起すに至る事がある、昔から古風な育兒衛生書は澤山あるが何分にも昔の智識で今日の育兒衛生には適當せず、又西洋の衛生育兒に關する書物を其儘飜譯されたものもあるが之れとても日本の育兒には適當しない箇所が澤山あるのです、一例を示せば西洋では産湯をつかはせる時湯の温度が非常に低く書いてあるが之れを直に日本の産湯の温度に應用したら夫れこそ大變、スグに小兒が風邪を惹いて仕舞ふ、であるから日本人の育兒法は即ち日本で實驗の書物でなくてはならぬ、其の書物が缺乏し居るのは實に殘念です

▲古來の弊習を打破せよ　第三は古來の習慣になつて居る育兒法を打破しなければ完全なる育兒の改良は出來ない、併し悲しい哉未だ今日では初産の婦人が子を産んでも何うして育てゝ宜いか無我無中です、夫れ故力と頼み、相談相手とするのは先づ姑さんで、何事も姑さんの經驗談に依らなければならぬ、若し姑が無ければ懇意な老婦人にでも聞かなければならぬ、經驗談を聞くのは殊に結構なる事ではあるが、今日進歩せる醫學上から見たら其の經驗談の中には隨分無鐵砲な事實が澤山あつて冷々する樣なことがあります夫れを能く鑑別をして一から十まで經驗談に從ふに飛んだ間違ひを來す故此邊の見分けが肝腎です

▲舊産婆の弊習　第四は姙娠當時に於ける産婆の撰擇です、今日では未だ舊式の産婆が澤山開業して居るし、熟練とか年功とか云ふ事を鼻に掛けて新教育を受けて産婆に拮抗しナカ〳〵勢力を振つて居る、去れども舊式の産婆は唯胎兒を産ませるに止まつて

同じ經驗でも學理に基いた根底がない、夫れ故何うも產後の肥立ちを誤るとか、分娩期に消毒が行き屆かぬとか又初生兒の取扱ひが惡く將來の健康に影響を遺ぼす事が多いとか、サマ〳〵の弊害が伴はれて來る、是れでは大切なるお產に臨んで姙婦が安心して一任する事が出來ないではないか、私の見た處でも舊產婆の取揚方が惡いので完全に產れた小兒を臍帶の落し方や消毒法の屆かぬ爲め、遂に治療が屆かずムザ〳〵殺して仕舞つた例が澤山ある、ソコへ往くと新教育を受けた產婆なら一般の產婆學に基いて順序よく適當の手當を施すから例令年齡は若くとも技術の上に確たる論據があつて舊產婆の熟練よりも年功よりは確かに產前產後の注意取扱かひ並に育兒上の良成績を認める事が出來る、產婆と育兒とは密接の關係を有する事故產婆を撰ぶには僅の事情に纏綿せず、斷然新教育を受けた者に重きを置かなければならない

▲初生兒の時期　以上の四ケ條は育兒上の關係尤も密接である故著しき缺點を擧げて御注意致したのです、小兒の哺育は實に困難なことで充分に實地經驗を積んでも又次ぎの小兒を育てる時には新しい事實が湧出で首を傾けて考へるやうな場合に接します、デ素より最愛の小兒の事故無事に機嫌克く發育すれば此樣愉快なことはなく、夫れと反對に鬱悶がつて泣いて斗り居るとか、兎角癇癪勝ちでもあつたら親の身になると其の心配は一通りでありません、扨愈々お約束の育兒談に入りますが先づ最初に初生兒の取扱方からお咄し致さう、一體小兒時代と云ふのは母親の胎内を出てしより十五六歲迄を云ふので、其の年齡に達する迄の間には色々に身體の變化する時期がある、其時期によつて小兒を區別されてあるし、從つて取扱法も違つて來るが、今玆に云ふ初生兒とは生れてから二週間迄位の間を申すので、即ち臍帶が落ちて跡の傷が癒ゆる迄を云ふのです、其間は丁度二週間ばかりの時日を要するのである

▲姙婦の臨月と產科醫　初生兒取扱上注意の順序として姙婦が既に臨月に近づいたなら必ず熟練なる產科醫に診察を受ける事が尤も必要とする、母胎の胎兒が規則正しく發育して所謂普通のお產なら初產と雖も別に危險のあるべき筈はなく、安全に平產する事が出來るければ萬一胎兒の居る場合等であつたら夫れこそ出產に臨んで轉倒で苦惱しなければならぬから斯いふ事の豫防として必ず產前に產科醫を招くが宜い、爾うすれば萬々一胎兒が轉倒し居つても夫れは居直りを直しくして愈々お產の時になつても安々と規則通りの出產をすることが出來胎兒にも決して故障の起るものでない

▲小兒の健康診斷　先づ恙なく胎兒が分娩したら產婆が萬事の取扱法を心得て扱りなく指圖するのが當前である併し出生の小兒は是非共小兒科の專門醫を招いて取敢ず身體檢査を受ける事が第一の急務である小兒の體外に顯れたる畸形なら一見して素人にも分る、即ち三ツ口だとか六ツ指だとか云ふ樣な事なら直に見分けが付くので專門醫の診斷を乞はなければならぬが、若し爾ういふ不完全な部分が眼に觸ぬと多くは安心して醫師の診察を受けず其儘に過して無病息才な小兒と斷定して仕舞う、是れ大なる心得違ひで此一步を誤りし爲め遂に取返しの付かぬ大事を惹起すやうになる、素人が等閑に附し誤解を來し易いのは小兒の體內に潛む先天性の疾患である其內でよく見受ける病氣は梅毒とか、鎖肛とか、心臟病とかで、爲めに小兒は衰弱し親々の眼にも夫れと心付く時に初めて醫師の診察を仰ぐ、此時薄弱なる小兒は往々取返の付かぬ重患に陷ゐる事がある、斯んな騷をするより分娩當時專門醫の身體檢査を受けて置く方が安心して育てられ、若し先天性の疾患があつても速に適當の治療を施す故後の憂ひを未然に防ぐことも出來るのですから、出生の小兒が身體檢査を受けるのは姙婦が出產の時產婆を呼ぶのと同じ事に心得なければならぬ

▲育兒の日記　此の身體檢査を受ける時には醫師の

注意もあらうけれど尙親達が小兒發育上の參考として同時に小兒の體重、身長、及頭部と胸廓の周圍を精密に量り夫を記錄し置のが必要である、夫から生れた時の狀態は何うであつたかと云ふ事も手落ちなく記しく置くが宜い、其狀態と云ふのは精密な程結構ですが忘れてはならぬ重なる事として出產の狀況、體重、身長、頭圍、胸圍身體、特徵、臍帶脫落幷に其瘢痕結成の時期、營養の方法（母乳、乳媼、生牛乳、煉牛乳固形食物を與へ始めたる時期）幷 其種類）齒の發生幷に脫落の狀況、起立步行の時期、發語發話の時期、幷其缺點其外一切の精神作用就中智識發達の順序より其特種なる點は必ず記すやうに仕なければならぬ、デ日一日と發育の模樣も變化を生じて來るから每日の事を細大洩さず記し置く時は其の小兒が將來の歷史として有益なる斗りでなく發育上の良否も一目瞭然故、發育不完全なる場合にも夫れを速に發見され、又醫師に相談する時にも夫れが有力なる參考となるから小兒を健全に哺育しやうと思ふなら必ず此日記を怠らず親達の我子に盡す當然の義務と心得なければならぬ

●初生兒の保育法

▲初生兒の健康なる特徵（一） 恙なく分娩した初生兒が健康であるか無いかと云ふ特徵があるが夫が一見して素人に解るやうに說明致さう、先づ充分成熟した初生兒なら第一に泣聲が高い昔の書物に「產聲高く玉の如き男の子を擧た」抔と云ふ事の書てあるか男に限らず女に限らず健全な小兒なら必ず高い聲て泣出すものだ、低い聲で優しい泣き方でもすると「マア此赤さんはお溫和しい事」抔と云ふ、夫れは素人方の誤つたお世辭で、醫師から申せば先づ虛弱な小兒とより外思へない、夫れから第二には皮膚の色を御覽なさい、赤味を帶びて居る、赤子とはよく名を付けたものです、爾うして脂肪筋肉が緊縮して居るのは健康な瑞相の一つである第三は頭髮が房々と密生して居し、第四は手足の爪が勢衰ないで充分に伸びて居る、丈夫な小兒は斯ういふ鹽梅に頭髮か

ら爪に至る迄出產當時から生々して居るのである

▲初生兒の健康なる特徵(二)　第五の健康な特徵は體重である、男の子なら二千九百ガラム(凡そ我が七百八十三匁)より三千ガラム(凡そ我が八百十匁)迄位です、若し之れが女の子なら男よりは目方が少し減じて二千八百ガラム(凡が我が七百五十六匁)內外です、第六は其の序に身長を量つて御覧なさい、男の子なら四十九センチメートル(凡そ我が曲尺一尺六寸二分位)女の子なら四十八センチメートル(凡そ我が曲尺一尺五寸八分位)あつたら充分です男女の目方や身の丈の違ふのは素より自然の理で別に怪むべき所はないが唯以上の如く申したら體重や身長の少ない初生兒は滿足に育まいかと懸念するお方もあらうけれど併し之は育たないと云ふ譯は無のです、育て方にさへ充分氣を付けて遣れば隨分健全に育つから念の爲め申添へて置きます、第七には頭部と胸隔の周圍の長さを量るに初生兒は必ず頭勝ちのものである即ち頭の周圍は三十三センチメートル(凡そ我が曲尺一尺九分位)が健康狀態であるが夫れに準じて胸隔の周圍は三十一センチメートル(凡そ我が曲尺一尺二分位)迄位のものである、是等は男女共各著しい差は無い女子の方が二三分も短い位です、倘序に申して置くが其の小兒が健全に成育して一年の後半期に及べば頭部と胸隔の周圍の長さは平均するか、左もなくば頭圍より胸圍の方が大きいのが通例である、即ち胸の發育が頭の發育に打ち勝つのである、然るに夫れが反對で一年の後半期より二年に及んでもなほ頭勝ちの儘で居る小兒がある、これは身體虛弱の徵候で身體のどこにか病があるのであるからよく醫師に托して早く相當の處置を施さねばなりません

▲頭の格好　初生兒が母體を出た當時は頭の形ちが小兒によつて各異つて居る、通例は丸いものと定つて居るが、稍ともすれば細長い形があるし、又は平たくなつたりして居る、ダガ之れは心配にはならぬ、日を經るに從ひ細長い形も平つたいのも次第に

圓味が付いて普通の頭形に復するものである

▲顖門と骨の發育　初生兒の頭部を能く檢めて見ると前頭にピク〳〵動いて居る處がありませう、之れを顖門と稱へ、俗に「ひよめき」と云ふがピク〳〵して居るからとて異狀のある譯ではない、未だ此の時期には頭蓋骨が閉ぢないのです、生後一年から二年の間には何時か此骨が閉ぢて仕舞う、處で二ケ年經つてもまだ顖門が閉ぢずに以前の儘に開けて居たら、夫れは骨の發育が不充分なる故、速に小兒の專門醫に診察を受けて相當の手當を仕なければならぬ

▲青班なる小兒　生れた時小兒の身體を檢査すると大抵は青班と云つて青い色の班紋が臀部、腰部、背肩部等に存ずるのを見るであらう、此青班は決して西洋の小兒には見ない、黄色人種に限つたものだが小兒の成長するに從ひ何時取れたとは無く自然に消滅して仕舞ひ跡を殘さぬから之れは案じるに及ばぬ

▲西洋の產湯は不適當　是迄順序を立てゝお話し仕た育兒上の注意は未だ胎兒の生れ落ちざる其の前に豫め親達の記憶し置かねばならぬ要件であるか妊婦が產氣を催ふして胎兒が母の體內を出ると、ソコで產婆が夫々規則正く適當の處置をなすので、扨之れからが愈々實地に手を下して保育する大切な時期となるのである、產婆は生兒を取揚げ、臍帶を切つて仕舞うと先づ產湯を行はせるが、其の溫度の事に就きお咄し仕て置きたい事がある、夫れは西洋の育兒書等を其儘飜譯した書物の中には日本人の育兒法に不適當な事が澤山記してあつて、既に產湯の溫度等は全然日本古來の習慣にそむいてゐるやうな低くい溫度を記載してある、即ち西洋では攝氏三十五度位ゐの產湯を行はせるが、此の位ゐの溫度では日向水の少し溫かい位ゐのもので、手を其中へ入れて見ると却つて溫いと云ふ感じがなく湯とは思へないやうな微溫である、西洋人の習慣から考へれば之れが適當なる溫度であらう、何故ならば西洋では浴法が

冷浴、溫浴、熱浴の三種あつて平生一般に溫浴を取つて居る、其の溫度は三十五六度の處です、爾うして入浴するにも垢を落して身體を淸潔にし精神を爽快にするのが目的であるが、斯ういふ習慣を直に日本人に適用致さうと云ても日本には從來日本人に適する入浴の習慣があつて俄に之れを打破する事は出來ない、先づ日本人の入浴法は身體を淸潔にし精神を爽快ならしむる外に身體を溫めると云ふ一種特別の習慣がある、故に三十五六度の日向水のやうな湯へ浴つたら忽ち感冒を惹くから、幾ら微溫好きの人でも三十九度以下では良い心持に溫まれない、况して熱い湯好きでは四十三四度位を喜ぶ程です

▲適當なる産湯の溫度　斯ういふ熱い湯へ浴いり習らつた日本人の間へ生まれた赤子ではあるし、且つは日本の家屋は西洋の家屋に比して誠に構造から不完全であるから室内の溫度は動ともすると冷却する、此際母の溫い體内を出た許りの初生兒が西洋で用ゐる三十五六度位の微溫な産湯を行はせたなら何うであらうか、少し手間取つたら忽ち血溫（攝氏三十七度よりも、溫度が下り、夏向きならまだしもよいが、寒中でゝもあつたら赤子の身體は俄に冷却して再び元のやうに溫めるには容易でない萬一溫めやうでも不充分であつたら生力次第に弱つて取返しのつかぬ一大事を釀すに至るであらう、故に日本で初生兒に行はせる産湯は夏と冬とを斟酌して攝氏參拾八九度位の溫度と定め、大人が其の湯へ手を入れたら丁度心持ちよく溫かに感ずる位即ち熱からず、ぬるからずと云ふ度合ひとするが宜い、倘日本人が熱い湯へ浴る事に就て衛生上矢釜しい說もあるが、私は寧ろ日本人の爲めには熱い湯の方が衛生上の利益ある事と信ずる其の理由は次回にお咄し致さう

▲熱浴とレウマチス　日本人は西洋人と比較して從來一般に熱い溫度の湯に浴る事が習慣で、此習慣を俄に改める事は迚も實行の出來ない斗りか日本人の爲めには熱浴を取る方が却つて衛生上利益と認める點が多いのです日本の家屋は前にも云ふ通り構造が

實に不完全て、濕氣を含んだ空氣や寒氣の強い時などは西洋の建築のやうに充分之れを防遏する事が出來ない、又衣服も其通り肌を現はし易く、洋服の如く手の先きから足の先きまで規則正しく纒ふて置く事が出來ない、夫れ故やゝもすると季節の如何に拘はらず寒冷に冒される、日本人がレウマチスと云ふ病氣に罹るものが多いのも、畢竟家屋や衣服の不完全なる關係からであらう、併し家屋の建築法や衣服の作り方が斯く不完全なるにも係はらず、日本人には猛烈なるレウマチスが割合に少ないのは全く熱浴の賚と信ずる、濕つぽい空氣や冷たい寒い空氣に肌を曝露しても熱い湯で充分に身體を溫めるからレウマチスの發病も豫防する事が出來るし、もしまた發病しても大抵の病症は熱浴のために自然に癒えて仕舞ふのである、之れを西洋人の如く溫浴を取る事にして攝氏三十五六度の湯に浴つて居たら、日本人はなほ一層強きレウマチス症に侵され之れが日本人種の痼疾となる不幸を招いたかも知れぬ、幸に熱浴の習慣で之れを防遏し得たのは最大なる幸福と云はなければならぬ、夫れにレウマチスの治療法として熱浴療法が勸める事があるが、從來熱浴の習慣とレウマチスとの關係は全く此の療法と一致した說である

▲無害有効の熱浴　熱浴はレウマチスには有効であるが、然らば一般の衞生上には害があるかと云ふに、之れは大分世間で矢釜しい議論があつて、理屈の上からは害があると云はれて居る、去れど衞生上の事は一片の理屈をもつて全般を窺ふことは出來ぬ、理屈の上からは惡い事だ害になる事だと云つても實際之れ丈の弊害が現はれて、理屈の論據を確かめると云ふ事でなければ其の理屈は空論と認めなければならぬ、夫れと同じ事で日本人は西洋人の如く浴を取るのは衞生上害があると唱へた處で、未だ是々の害が的面に顯はれたと云ふ事も無く、子供の時から熱い湯へ浴つて居ても何れ丈の害があつたと云

ふ事實も認めない、殊に昔から日本人の習慣となつて居た事であればヨシ理屈上では熱浴は害があるとした處で、實地の上には夫れ程の害は顯はれないものです、況して事實上から無害を說明されて居る事なれば私は日本人の爲めに熱浴を無害有効と信ずるのである、去り乍ら一言申添えて置きますのは以上のお咄は健康の人に對して云ふので、或る場合即ち心臟病、肺病のある者、逆上し易き人など平生健康ならざる人々には四十度以上の熱浴は堅くお禁め申します、入浴中卒中症を起したり肺病患者が咯血したりする事はよくある事です尚夫れと長湯をする事は宜しくないので、御婦人方の長湯は一層御注意を願ひたい

▲産湯の始末　お咄しが枝葉に渡つたが、本論へ戻つて産湯の事をも少しお咄し致さう、産湯の行はせ方は産婆の役目であるが、舊産婆抔は隨分無鐵砲な行はせ方をするから特に御注意申して置くのです、産兒の體を洗つた湯で直ぐに顏や眼を洗つたりすることのないやうに顏や眼は必らず別の器へ新たに湯を盛り夫れで洗ふやうになさい、又淋毒ある母なら藥液點眼の外に嚴重に産兒の眼を注意しなければならぬソコで、良質なる石鹼で身體を洗ひ清め全く湯を行はせ終つたなら、軟き手拭か又は軟き西洋手拭にて必ず手早に拭いて産衣を着せ、豫め用意せし蒲團の上へ安らかに寢せるのである

▲生兒の入浴　生後凡一ヶ月間は每日一回宛湯をつかはせ、石鹼で身體を洗ひ清めねばならぬ、殊に頭部、腋の下、股間等に注意して垢のつかぬ樣に洗ふがよい頭皮からは脂肪の分泌が盛な爲に稍もすると脂肪が堅く附着して痂皮となり、其上へ塵埃が付いて次第に不潔になる斗りだから、每日丁寧に能く洗い落すやうに仕なければならぬ、夫れから腋の下や頸の下、股、間、又肛門のあたりも垢や皮膚の分泌物が着いて夫れが分解される爲め此の部分は糜爛て小兒は非常に煩悩つて困るものだから丁寧に洗つて遣るが宜い、殊に股や臀の邊は大小便の汚れから

日に幾度となく濕布を取りかへる其度毎に其の部分を手拭を湯に浸して拭ひ、其のあとをば乾いた手拭で靜に拭ひ若したゞれたなら拭いたあとへ亞鉛花澱粉か普通の白粉を撒布と糜爛は次第に癒つて仕舞ひます

●生兒の產衣

▲襦袢は裏返しにせよ　生兒に產湯を浴はせて仕舞つたら、裸體では置けないから取敢ず着物を着せなければならぬ、此の着物が即ち御承知の通り產衣であるが、之れは何ういふ品質を選んで何ういふ鹽梅に裁縫したのが適當であらうか、又是れ迄の習慣上如何なる弊害を矯正せねばならぬか私の實驗をお咄し致さう、先づ下には襦袢を一枚着せなければならぬが、總て肌へ直接に着く布の品質は毛布よりも絹布よりも一番綿布が適當で、詰り晒木綿類の成可く軟かい一旦水に入て糊を落したのを貴びます、ソコで縫方は筒袖にするので袖丈と袖付けを各々三寸五分位にするのです、出來上つたなら其の襦袢を裏返しに仕て着せる事を忘れてはなりません、斯うすると縫目の縁が生兒の軟かい皮膚へ當るやうなこともなく、擦れたり爛れたりする心配もないのです、私は自分の小兒には孰れも裏返しの襦袢を着せ、肌着のために生兒の皮膚に故障を起した事など一度もありませんでしたから是れは是非お勸め致すのであります

▲產衣の改良　襦袢の上へは一ッ身を着せるのが通例である、是れも縫方を改良して袖丈と袖つけを各四寸にするのです斯うすると生兒の手を樂に袖へ通すことの出來る斗りでなく、附紐を締める時に丁度袖の下へ締めるやうになつて別に八口を明ける必要もない、爾うして襦袢と重ねても襦袢の袖は前に申す通り三寸五分位ですから一ッ身とは樂に重なります、袖丈や袖つけが定つたらソコで綿を入れて綿入の一ッ身に拵へるのです、綿の入れ方は青梅綿を胴の處へは三枚、腰と袖へは二枚位に致すのが先づ適當である、デ夏の熱い時候に產れた生兒には此綿入

を一枚と襦袢一枚で宜しいが冬の寒い時分には此綿入れを三枚お着せなさい、尤も衣服は候氣との關係てあるから斯うお咄し爲たからと云つて何處の土地でも必ず之れ丈け着せよと云ふのではない、其土地の氣候によつて臨機の處置をするのが必要であるが、右は東京の氣候で實驗した程度をお咄しするのであるから其お積りに御承知を願ひたい

▲産衣の色と附紐　産衣の色の事を序に申して置かう從來茜木綿とか、鬱金木綿を用ゐるのが一般の例になつて居るけれど稍もすると斯ういふ色が皮膚へ染つて非常に不潔になるものである、是れは甚だ宜しくないから凡て襦袢は白の色にするし、又一ッ身も裏を付ける時、裏丈は必ず白を選ばなければならぬ、尚附紐の附け方は申す迄もなく後ろ紐にして前へ廻して緩やかに締めるやうになさい

●襁褓と虎子と布團

▲おむつの扱ひ方　今度は「おむつ」の事をお咄致さうが之れも木綿で造つたのを宜いとするのです、一巾物で長さを二尺にするか又左もなくば四尺の長さにして夫れを輪にしても宜しい、輪にしたなら乾すとき竿へ通すに便利があるから之れは何方でも都合の宜い方を採用が宜からう、處で夫れをば二三枚重ねて生兒の腰の下へ横に敷き、其の外に一尺巾の巾を一尺の長さに切つて、今横に敷いた「おむつ」へ縱に覆せて股挾みにする、普通股挾みは半巾ものを用ゐるが、日々取扱つて見ると矢張り一巾ものゝ方が廣い丈誤つても着物などへ汚れ物が附着せず却つて便利である、夫れから尚注意するのは其の股挾みの上に軟い半紙を敷き夫れへ大便を受けると一層取扱ひの上にも便利があるし、又大便の性質も克く鑑別が出來る故生兒の病氣の時などは直ぐに容易く發見する事の出來る便益がある

▲おむつとおかわの臭氣止　何れの家庭でも「おむつ」を二三回使用したら直ぐ棄てる者はあるまい、處で大小便を受ける「おむつ」であるから如何に湯や水で洗つても其の臭氣は薩張りとは拔けない、之れ

には随分お困りの方もあらうし遂に「おむつ」は臭い物だと諦めて居る方もあらう、去れど其の臭氣を拔く方法があるのです、即ち一旦湯なり水なりて奇麗に洗つたら其の跡でガマンガンサンカリ溶液をもつて精根におゆすぎなさい、此のガンガンサンカリと云ふ藥は何れの藥種屋にもあつて又誰れにも賣る極く安値な藥てす、夫れを十錢も買ふとナカ〳〵澤山あるし綠色に色の付いた稀薄な溶液て充分臭氣が拔けるのてす此の方法は別に手數も懸らず「おむつ」をゆすぐ時に雜作なく誰れにても出來る事てすから試用して御覽なさい、此方法て「おかわ」もお洗ひなさい、洗ふと矢張り臭味が拔けて不快を感ずるものてなくなります

▲布團と湯たんぽ　次には生兒を寢せる布團だが之は成丈け軟いフワ〳〵した布團が宜いし、枕は中へ綿を入て造り、フンワリした輕い物を被て安全に休ませる工夫を仕なければならぬ、冬季は生兒の頭へは眞綿てつくつた頭巾を冠せるやうになさい夫は頭の冷ぬ爲てある、夏なら生兒の身體が冷る事はないけれど冬は兎角に冷え易くて困る先寒中なら被けて置いた夜具と生兒の身體の間へ手を入れてポカ〳〵仕て居れば心配は無い、併しポカ〳〵温かに感じなければ必ず湯たんぽを用ゐて冷えぬやうな趣向にするのだが、夫れには左右兩側と足部との三箇所へ入れなければ湯たんぽの効能がない、若し湯たんぽが無ければ麥酒の空壜に湯を注いたので代用が出來る生兒の身體は徐々と冷えるものであるから寒い時など油斷して既に冷却した以上は扨ナカ〳〵温たまらず遂には救ふべからざるに至りし例は是迄澤山あつた



●赤痢病豫防の心得

（大日本私立衞生會雜誌二六七號附錄轉載）

醫學博士　志賀　潔君

我邦は年々歲々赤痢病の爲めに苦しめられ、津々浦

々に至るまでも流行せざる所なく、全國の赤痢患者數、多きは年に十數萬餘、少きも一二萬を下らず、之が爲めに府縣乃至郡村の年々支出する豫防費は數十萬の多きに上り、若し之に赤痢病流行の爲めに受くる所の生産力の損害、患者の治療費用等を合算するときは實に數百萬の額に上るべきなり、養蠶地方に於ては、蠶の手當行き屆かずして蠶兒を棄つるに至り、機業地方に於ては、女工等の缺乏の爲めに工場は閉鎖せられ、農業は收穫の時をあやまり、一年の收入を一朝にして水泡に歸せしむ、されば赤痢の劇しく流行したる町村にては、其豫防費の支出に苦しめらるゝのみならず、流行後には産業を失ひ、饑饉に陷るものまことに少なからず、之を小にしてはきのふまで産業取引などにて繁榮を極めしも、今日は人烟の稀なる寒村と化するもの少なからず、之を大にしては海外貿易の不振を來たし、國家經濟上まことに容易ならざる損害といふべきなり

振古の大勝を得て我邦の名譽を世界に發揚したる日露の戰役も、漸く我が目的を達するの機運に近づき來れり、然るに不幸にも内地に於ては、本年は赤痢の流行甚しく、四五年以來の大流行を見ん有樣なり、殊にある三四の縣に在りては、既に千餘の赤痢患者を發生し其慘害ます〳〵甚しからんとす、異域にありて苦難を嘗つゝある、我が忠勇なる將士の古鄕に留守する妻子家人をして、果敢なく赤痢の爲めに病死せしむるが如きあらば、出征軍の士氣に關するのみならず、我々留まりて内を守るものゝ責の大なるといふまでもなく、まことに出征將士に對して申譯なき次第ならずや、されば吾人は相共に協力して、此病疫の豫防消滅に盡力せざるべからざるなり

赤痢の症狀

赤痢病は人より人に染る所の所謂傳染病にして、赤痢菌と稱する病毒に因りて發するものなり、年々五六月の頃より初まり、八九月に猖獗を極め、十一月頃に至りて一時消滅す

赤痢の病狀を簡略に說明すれば、初め一二日の間多くは便秘なり、或は便通不調ありて、次て數回の下痢あり、同時に腹痛あり、食欲減退す、夫より下痢益々劇しく、一二日の後、粘液及血液を混じ、裏急後重（便通あるも便意止まず肛門部に苦しみあるをいふ）ありて苦悶甚し、輕症なるものは一二週間、重症なるものは三四週間にして漸次に快方に趣けども、劇烈なるものにては四五日にして死亡するを多しとす

赤痢の傳染

赤痢の病毒は腸に宿るものなれば、患者の糞便中に幾十萬無數の病毒を含有す、故に赤痢患者の糞便の取扱には尤も注意して、一定の消毒法を行はざるべからず、然らざれば、病毒は糞池の中はいふも更なり、寢衣にも着き、夜具にも着き、寢衣を洗濯する手にも着き、洗濯用の水より井戸にも浸み入り、溝渠にも入り、河中にも入り、又病毒の附着せる手の觸るゝ總ての物件にもつきて、飲食器、牛乳、野菜、薬物等に病毒を附着し、又糞便上にとまりたる蠅の爲めに、食物、器物等にもつき、到底想ひ至るべからざる邊にまで、此病毒を蒔き散らさるべきこと理の最も睹易き所なり、右の次第によりて考ふるに、一地方に於て一たび赤痢病の患者發生したりといふときは、其病毒は先づ何れの所にも、蒔き散らされ得べきものと覺悟せざるべからざるなり、誠に寒心に堪へざる事どもなりといふべし

赤痢豫防の心得

一、先づ不潔物は百病の潜伏する所なれば、居住家屋より家具、衣服、身體に至るまで淸潔にするが、傳染病に對する豫防上尤も必要なる第一の條件と心得べし、されば居室の內外の掃除を怠らず、晴天のときは戸障子を開放して空氣を流通せしめ、衣服は時々洗濯し、殊に襯衣を淸潔にして時々沐浴して身體を淸潔にすべし

二、赤痢流行時には尤も飲食に注意して、胃腸を損害せざる樣心掛くべし、猶注意すべき條項を細か

に擧くれば左の如し

(イ)平常慣れざる食物はなるべく之を避け、間食を廢し、又暴飲暴食を愼むべし

(ロ)食物は必ず熟煮したるものを選ぶべし、平常食し慣れたるものは大概よろし、唯熟煮したるものにあらざれば、食はずといふこと緊要なり

(ハ)飲料水は必ず一回煮沸したるものを用ゆべし、一回煮沸したるものは冷却後にても差支なきは勿論なり

(ニ)食物の熟煮したるもの、食器の洗ふたるもの等は、蠅の其上に來り留らざる樣注意すべし、(蠅帳に入れ置く等其他何ほ法あるべし)又熟煮したるものといへども宵越のものは食すべからず、こは腐敗の虞あり、而して腐敗したるものは消化器を害し、下痢を發するの恐あればなり

(ホ)上陳の注意必要なるが故に、由來の明かならざる食物は、例之、他人の家に於て供せられたるもの若しくは贈り越されたるもの等を食ふべからず

三、食器を洗ふ水は一旦沸煮したるものを用ゆべし、盥嗽用の水、朝一釜の湯をわかし置き、節して之を用ゆるときは、大概一日の用に足るを得べし

四、常に腹卷を用ゐ腹部の冷えざらん樣心掛くべし、冷ゆるは下痢の基なればなり

五、夜間熱さに堪へかねて戸障子を開放し、裸體にて、寢に就くは甚だ宜しからず、これ亦下痢の本となればなり、又寢衣及夜具は時々日光に曝すべし

六、便秘は亦往々消化器を害し、赤痢病の誘因となることあれば、人々の習慣に因りて一樣ならざれども、一日若しくは二日に一回の便通ある樣心掛くべし、又通常赤痢の初めには便秘し、次て下痢を發するものなれば、此場合には直ちに醫を迎へて其手當をゆるかせにすべからず

七、小兒等を戒めて水泳を爲さゞらしむべきこと必

要なり、（水泳其者は小兒等が夏時に於ける遊戯中頗る有益のものなり、然れども赤痢病の流行時に當りては、往々河水中に病毒の流れ來りて、之より感染するの恐あり、又其例に乏しからざれば、かゝる場合には水泳を避けよといふなり）

八、蠅は病毒傳染の媒介となるものなれば、蠅の發生せざる樣、塵埃の掃除等に注意し、且適宜の蠅取を置きて其消滅を計るべし

九、井戸側の古きは取り換へ、外より汚水の流れ入らざる樣注意すべし

十、溝渠は時々掃除して水の滯らざる樣注意すべし

十一、糞池には時々臭氣止消毒藥、アルボース、石灰乳の類を投じ、屢々汲み取りて清潔になし置くべし

赤痢患者の所置

上陳の件々を嚴守すれば赤痢病に罹る恐なき筈なれども、若し萬一にも測らざる不注意より、此病に罹りたるときは、次の條々を心掛くること緊要なり

一、何人にても少しく下痢の徴ある時は速に醫の診察を乞ふべし、赤痢は初期に於て療治を施すときは速に全治するも、病進みたる後にては治療困難となり死亡するもの少なからず

二、自から少しく疑はしと思ひたらば、必ず然るべき醫師に就き診察を乞ふべし、決して賣藥などを用いて手療治をなすべからず、之が爲めに治療の時機を失して、遂には取り返へしのつかざるに至るべし

三、いよ〱赤痢病と定まりし上は、直に自ら進みて傳染病院、若くは隔離病舍に入りて治療を受くべし病院若くは病舍には醫師あり、看護人あり、藥品、器械類總て具はりあれば、患者の治療、手當は十分に行屆くべし、患者を隱蔽し、或は強て自宅治療を爲すときは、消毒等に至るまで、手當行屆かずして家人にまで感染せしめ、一家枕を駢べて打ち臥すが如き不幸を見るに至るべし

四、患者を送院したる以上は、患者の居室及手廻り

一切のもの丶消毒を爲さゞるべからず、然らざれば、其家に病毒を殘して續々患者を發生すべければ、喜びて消毒施行を希望すべきのみならず、豫防員、消毒掛の人々と協力して、病毒を殘留せざる樣消毒に注意すべし

事情許さずして自宅治療せざるべからざるときは、患者の看護に從事するもの一人を定め置き、他の人は一切患者に觸れざる樣遠かり居るを要す、其看護に從事する人は左の項を心得べし

(一)看護に從事する人は善く醫師の敎を受けて事に從ひ、患者の周圍を清潔にし且つよく整頓する樣注意すべし

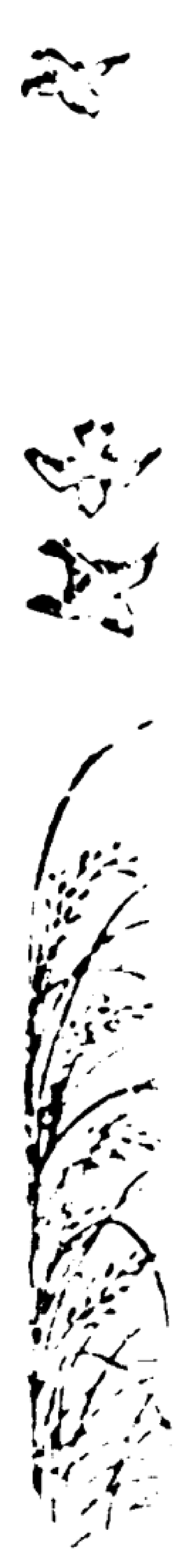
(二)看護人は白の上衣(消毒衣)を着し、時々之を消毒洗濯すべし、患者或は其衣服、便器及び總て患者の糞便の着きたりと思はる丶物件を取扱ひたるときは必ず其都度手を熱き湯にて石鹸を用ゐ、次に石炭酸水にて洗ふべし

(三)患者には便所を使用せしめず、糞便は便器に取りて之に石灰乳を混じて消毒し、然る後一定の場所に捨つべし

四、患者の食器は他の家人のものと混ずべからず、又毎回使用後煮沸消毒すべし

五、患者は外觀治癒せる後も、一定時間は赤痢の病毒を糞便中に存在するものなれば、全治後少なくも一週間は上陳の條項を忘るべからず

六、患者の使用せる衣服、夜具、布團等は蒸氣消毒法を施行し、食器類は曹達水に入れて、煮沸したる後にあらざれば使用に供すべからず



家庭衛生

姙娠中の攝生

醫學博士　緒方正淸氏所說

▲褥婦の離牀　褥婦は最初一週間は、必ず褥中に安臥するがよい、さうせないと子宮内の創面の治癒が

遷延して、その恢復が遲くなるのみてはなく、子宮の位置が變狀を來したり、或は子宮および膣が下垂することがある、野蠻人とか勞働を執るところの婦人とかは、安静を守ることが出來ないから、分娩後に種々な病氣を引起して、子宮、膣、または膀胱などが、悉く陰門外に脱出して、恰も男子の大睪丸と同様に、最と見苦しき有様を呈することがあるのであるが、彼の野蠻人は殊に分娩の經過が迅速て、且良好なところから、自然その新産婦も直ぐ業務に從事するものが多いやうてある、それてこゝに一つ面白い例があるが、彼のインヂアン婦人の如きは、その種族の前進する場合に臨み、分娩が起つた時は、近傍の叢林に避て、その分娩を遂ると直ぐ、產れ立の小兒を自分の背に負ふて、前進した種族に追着くといふ風習がある、實に輕便とも何ともマルて嘶か何かにありさうなことだが、事實斯やうな珍談は決して彼等の間では珍談てなきのみか、歐米の文明國においても、その勞働者の内には斯やうな野蠻的の處置を執るものがあつて、わが邦ても前にお話した八瀬大原の婦人などは、一時間以内で平易に分娩して、大抵早きは翌日、遲きも二三日の後には、必と平常の業務に從事して、例の有平糖式の京の舞子の阿娜に遣てのける、打盤横槌買しやんせを正ていくのである、併し言ふまでもなくこれ等は異例中の異例で、普通は健康な婦人てあつても、一週間乃至二週間を經過した後には、少しく室内を運動する位は構はないが、餘り長く激しい運動を取るのは、無論不可いのてある、だが亦無暗に長い間牀に就いてゐるのも、却て身體の恢復を遲くすることがあるから、その程合はよく〳〵注意を要する理で、先づ日本人に最も適當なは、三週間位が最も適當した靜養期間だらうと、思ふ、そして、その初めの一週間は臥牀を離るゝことなく、安静にし、次の一週間は室内の運動および起臥を自由にし、終の一週間は室外の運動を許すやうにしたらば、最もよからうと思ふ、でまた、この時になつたら少しは外出しても妨げはないのてあるが勞

力を要する動作だけは、必と避けなければならないのである云々

▲黴毒患者の福音近し　北里博士談に曰く今より二十年程以前にルストガルテン氏が「黴毒菌」と云ふものを發見して、一時醫學界を騒がせたけれども、研究の結果其病源體で無いことは明かになつた、其の後二三の人々が何れも之れに類似の細菌を發見したけれども（凡て不成功に終つた斯くの如き狀態で今日に至るまで其病源體は細菌であるか、又は一種のプロトゾオエンに屬すべきものかは明らかでない。且つ淋疾だの黴毒だのと言ふものは、動物試驗を充分に行ふとが出來ないから、隨つて其の研究も後れたのであるが、淋疾は、淋毒菌の發見者ナイセル氏が之れを人に實驗して其の誤謬ならざることを確かめた、又黴毒も秘かに人に就て實驗した所が、案の定其の人は感染した、之れに因つて黴毒も亦一種の傳染病であることだけは明らかになつたのである。

それで次に來るべき問題は黴毒は人間特有　の病氣であるか何うかと言ふことである、之れに就ては獨逸のビオルユースキー氏が曾て馬に試驗を施したとがある、一は水銀療法を施した患者、一は何も治療を施さない患者の血清を採つて、二頭の馬の靜脉に注射した所が、後者は一定の潜伏期を經て皮膚に發疹を生じたので、是れ即ち黴毒の爲めであると報告した、然し馬の血液中に異種の血清を多量に注射すれば、發疹するもので、ヂフテリー患者の血清を馬に注射するも發疹し、又完全なる健康狀態にある人の血清を注射しても、同樣の結果を來すものであるから、これだけでは眞に黴毒を馬に感染せしめたものとは言ひ得ないと駁撃せられた。

▲鼠を試驗す　又佛國のパストール氏研究所のルー及びメッチエニコッフの二氏はモルモット鼠に試驗したけれども、遂に感染しなかつた、そこで右の兩氏は人間に最も近い、即ち最も高等なる部に屬する

シンパンジーと言ふ猿を選んで接種した所が、果然、一定の潜伏期を經て其の症狀が現れて來た。

▲シンパンジーは黴毒に感染す　メ、ル兩氏は千九百三年十二月に一頭のシンパンジーに接種し試驗の結果を報告して曰く、

其中一頭は二歲の牝猿であつた、先づ其陰核の包皮に硬性下疳の分秘物を接し、五日を經て更に人間の黴毒病竈を掻き取つて右の箇所に接種したるに、二十六日後に至り果して小さき水疱の生ずるを見、次第に黴毒に特有なる扁平なる硬き潰瘍となり一兩日後には鼠蹊腺に無痛の硬結を來した、五十六日經過すると腹部背部及び大腿の皮膚に、始は四個の、後には十五程の薔薇疹を生じたが其一部は鱗屑、一部は痂皮を以て被はれた、次ぎに脾臟、腋窩腺が腫脹して來た、又口腔にも潰瘍があつた（但し之は黴毒性のものなりしや否やは不明）薔薇疹を發してより四十九日にして肺炎性敗血症の爲めに此猿は斃れたが、其症狀が黴毒性のものであつたことは、巴里の有名なる皮膚病學者に依りて確證せられた。また他の一頭は牡猿であつて件の牝猿の病竈より分秘物を取つて其の陰莖に接種したが、卅五日にして明かに黴毒性症狀を現はして來て、四十五日目に他の原因の下に死亡した、右の實驗に依つてシンパンジーは黴毒に感染することを確めたのである

▲マカクスを試む　其の後ル、メ兩氏は人に遠き猿、マカクスの類（日本の猿も亦之れに屬す）に就て實驗したが、弱いながらも感染し得ると報告して居るさうして人に近ければ近い程黴毒に對する感受力は強くマカクスの如き人に遠き猿にでも弱い乍ら感染し且つ其の毒力は弱くなるから、一度マカクスの體を通じてシンパンジーに接種すれば、非常に弱めらるゝ、尚進んで之を反覆試驗する時は遂には此弱められたる病毒を人に接種して黴毒の傳染を豫防せらるゝであらうと言つて居る。獨逸の醫學者ラツサー氏も之れと大同小異の試驗を行つて居る。

▲ナイセル氏の說　然しプレスラウのナイセル氏は

之れに對して、黴毒に罹れるマカクスからシンパンジーに植ゑたる黴毒が弱く發するのは、果してマカクスの體を通じたるに因るか、否かは尙數回の試驗を要すると言ひ、且つ同氏は、黴毒患者の血淸を取り其四百廿立方仙迷を、一定の時を隔てゝ八ケ月間にシンパンジーに注射したが何の異狀も無かつた、其れより八ケ月を經て更に新しき黴毒患者の扁桃腺組織片を取つて其頰皮に接種したのに、確かに第一期黴毒症狀を發現した、依て氏は黴毒患者の血淸はシンパンジーには無害で、隨て血淸は豫防の効力が無いと言つてゐる。

然しナイセル氏は未だ一回しか實驗をしないのであつて、尙此の上數回反覆試驗を行はなければならぬ、且つ、治癒せる人の血淸をとつて試驗すれば有効であるかも知れぬ、之れを要するに業に上に述べたる如く泰西諸家の研究により動物試驗に依つて一定度迄病毒を減弱せしむることを得といふことは說明せられた、假令其の病源體は未だ不明とは言へ黴毒の血淸療法も亦決して望なきものではない、外國は勿論當傳染病研究所に於ては熱心に研究中であるから、彼のパストール氏の狂犬病に於けると均しく、此の方針に向つて進めば細菌學の方面よりして接種療法の好果を見るに至るであらう尙最近の報告に據れば獨乙伯林の帝國衛生局の技師シャウヂン氏は黴毒患者の病竈より一種の螺旋狀菌を發見して世に公にしたる以來、大に學者の注意する處となり多くの學者は之れに信を措きつゝあり、早晩黴毒の病原體も明瞭となるに到らんといふ

▲韓國内地の衛生に關する醫學士野田忠廣氏の談話の一節の抄錄

▲風俗習慣　に關しては、第一に服裝であるが、衣服は殆と悉く白色で、其比較的淸潔を保持しまするることは本邦人の衣服に比して確かに勝つて居ると私は認める、從つてこれが洗濯の業に當る婦人の勞力は頗る多大であつて、恰も此國に生れまする婦人は

洗濯の爲に生れ出たのではないかと思はれる位である、又衣服の形は上下一般に長い筒袖で、男子にして結髮して居るものは、耳朶にマングンと稱する物を付けて居る、それは水牛角或は金の彫刻ある物、無地又玉の彫刻ある物無地と色々の階級に依て其種類は違ふ、それからクワンジヤと云ふ小さい輪であるが、それは丁度耳の顳顬部に相當して居る所にある、それで固く額から後頭部にかけて緊約して居て、其上に例の朝鮮帽を戴くのである、或は倘ほダングーなる帽子を被つて更に其上に朝鮮帽を戴くのもある、又靴は中流以上の者は支那靴に類した靴を穿ち、下級の者は草鞋を穿いて居るが、これは日本の草鞋より大に勝つて居る、其外雨天の時は刳下駄を履いて居る。

▲男子の結婚した者　は髮を頭の頂きに束ねて簪を根元に挾み、未結婚者は髮を束ねて背に垂れて居る、是を總角といふのである、五十歳になつても六十歳になつても未婚者は總角たるを免れぬ、て之は人から一番待遇を低くされるから、韓人は十四歳位になると大概結婚する、畢竟大人たらむと欲する所からであろうが、早婚の風はこんな關係から來るらしい、女子は髮を入れて矢張髮を頭上に束ね、それに笄を挾んで居る、上着は男子に比して短かく僅かに乳を覆ふ位で、若し婦人にして兩手を擧げると下から乳或は背中の肉體を指見ることが出來る、そうして下部は袴を穿つて居る、大抵中以上の婦人が外出するにはチヤコと稱する被衣を纏ひ、或はサツカと稱する深笠を用ひて、多くは皮膚を露さぬのである、子供は日本の丁度小學校なり幼稚園に居ります る女兒同樣に髮を長くして編んで後ろに垂れて居る、さうして衣服は或は赤色或は桃色或は小豆色にする者がある。

▲此風俗中で特に注意すべき事柄は、中流以上にあつては、所謂昔からの儒教主義を極端にまで守つて、既婚の婦人は終日内房に幽居して、良人以外の者は敢て接近を許さぬ、縱令病氣に罹つても醫者が容易

く觸診の許可を得ることが出來ない有樣である、又再婚禁止の國法がある爲めに、良人に別れた後は或は人の妾となるか、或は卑き賣婦となる者も多い、こんな風であるから朝鮮の婦人の診療は、我々醫師の側からして風俗上の一難關である。

▲食物は　中流以上では、稍々支那及日本を折衷したる如き料理である、肉食は我國人に比して、割合に多くする方で、牛豕も無論用ゐるが犬肉を多く用ゆる、殊に夏季は犬肉を用ると精氣を増すとか元氣を快復するとか云ふので、多くそれを用ゐる、從つて多きは一軒の家にして犬の十頭位食用の爲に飼つて居るのもある、其外鷄、山羊も少ないながら矢張食品の一になつて居る、又穀物の方は上流では無論米である、下級になると、義州附近では玉蜀黍を常食として居る、其他魚類では多くは醃魚とか海老の鹽辛とかを用ゐる。

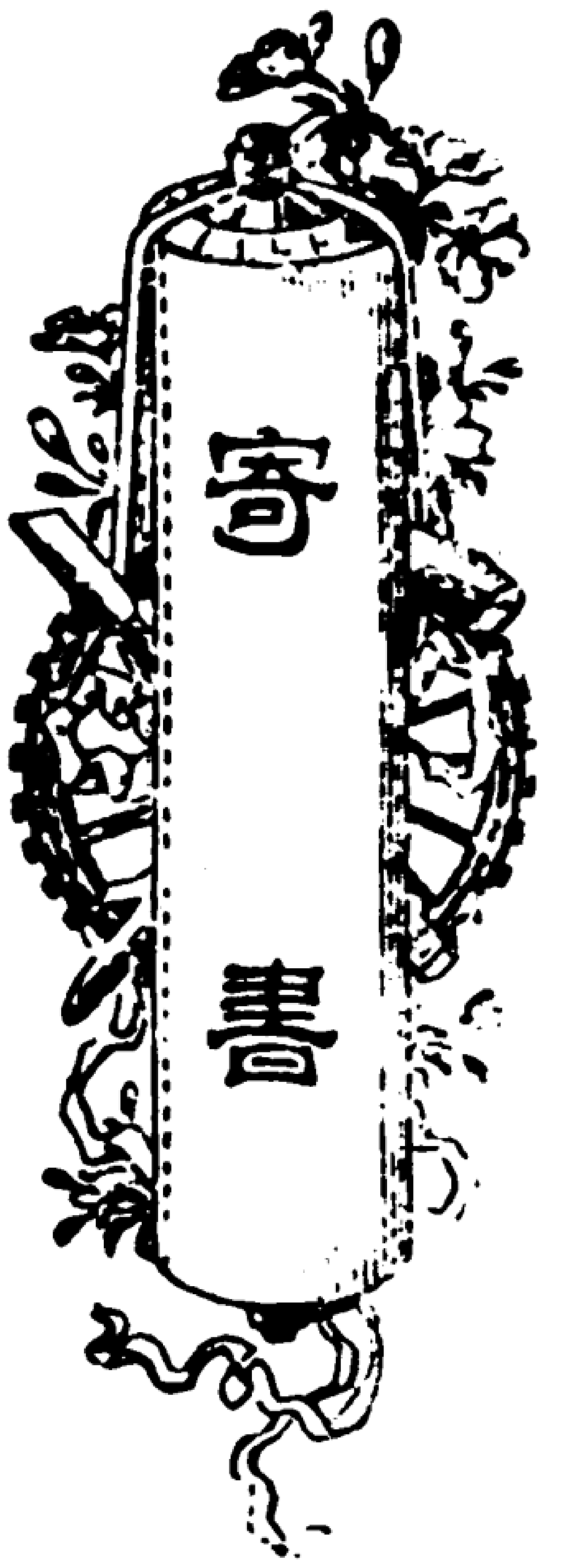
又無論生魚も燒たり煮たりして用ゐる、それから味噌汁、菜の汁、唐辛味噌漬等の類もある、何の食物に致ても蒜の臭ひの加味せざる物は、殆どない、又唐辛なり生薑なり、辛なりの香料を入れぬ物は殆どないので、最も辛味を好む所の國民である。

屢々朝鮮の料理屋で朝鮮人が飲食して居る有樣を見たが、大きな鍋に一杯汁を沸して、其内に菜或は豕の肉或は犬の肉など入れて甘そうにやつて居る、又皮を剝いたなりの犬の頭或は牛の頭を大きな鍋に漬けて潮煮にして居るのもあるが、いづれも日本人から其有樣を見るとトテモ口に入れやうとは思へぬ位に不氣味である、又肉屋の店頭に屢々牛或は犬の頭が皮を剝いて陳列されてあるが、大抵此の丸むきの頭には誰れしも初めはギヨツとするのである。

又是は無論下等勞働者の類であるが、途中甜瓜を食ひつゝ歩るくのを澤山に見かける、非常に甜瓜を好む人民と見え相應の服裝をした者迄が途中平氣でムシヤ／＼と甜瓜を噛りながら歩るく風がある、又多くの細民になりますると殆ど其日暮してあつて、若し不幸にして其日の生活費を得ることが出來ぬ時

は、終日食はぬて居るのである。ザッと大體から見た朝鮮の風俗は先づこんな工合である。

尙氏の韓國民の病氣に就て説話せらるゝ處によれば矢張り日本に於けると大差なく呼吸機病尤も多く次に消化機病婦人に就ては生殖器病其他眼病トラホーム等到る處に蔓延し各種の傳染病は殆んど絶ゆる遑のなきほどにて春の季節には天然痘秋の季節には消化機系の傳染病殊に赤痢は至る處に蔓延するも幾分か輕症なるが如しとは野田學士説話の一節なり



●醫學に於ける糞尿の應用（つゞき）

醫學士　竹中成憲君

▲火傷の藥

我國民間療法として火傷に糞便を塗布するものあり

「一例」北海道江差の同業吉岡峰雄君一日全身黄金色を呈せる火傷患者に遭遇せり患者は石油鑵を開き其「火止」なる否やを試みむと欲し鑵口に點火せる「マッチ」を密接せしに忽ち全鑵火を發し傍に在りし同人を燒きたる者にして同人は直に圃に走り糞池に飛び込みたるを以つて黄金佛となれるなり（其後同人は死せり）

予（成憲）往年自から火傷に罹り火傷の藥としては食鹽水（百倍弱）の最良なる事を知り之を報告せり（後、三輪博士も同一意見を發表せられたり）

而して尿は一種の食鹽水にして日本人の尿は洋人のソレよりも鹽量稍多し（舟岡氏）故に尿を火傷藥とするは尤なる話にして實に民間之を使用す

▲下熱劑としての糞汁

地方に依りて下熱のため便汁を用ゆるものあり之を採るの法は竹を截り兩端に節を殘し外より中に入るべき孔なきものを久時便所の糞池に入れ置き久時を經て用に臨み之を開くに中に澄明なる液あり此液を

用ゆるなり(朝鮮の法)是糞便と尿と混和したるものを竹の實質を以て濾過したるものなり此糞汁を用ゆることは敢て我國固有の慣習にあらず朝鮮に於ても之と同一なる目的の爲めに使用し之を黃金湯と云ふ我國に於て小判(金貨)を土瓶の湯に投じ其湯を重症患者に用ゆるの風あり或は上記黃金湯を杓子的に解釋したるにはあらざる乎。

▲人品の鑑定

糞の量は食物に因りて大差あり食に肉多ければ其量少く貧者は其量多し西洋人の糞は犬の糞の如し東洋人の糞は其形太く短く芋の如し我國下流社會の野糞を西洋貴婦人に見せたらむには恐らく其人糞たるを信ぜざるべし何となれば其形餘りに太ければなり入澤博士は本邦人の糞の直徑を計り其寸法を參考して痔論を研究せり故に糞を檢して脫糞者の品位を知り得るは敢て空言にあらず其色に據ても亦食の概略を知るを得、肉食するものは黑色茶色、米芋を主とするものは其色黃色、茶色、乳汁のみを用ゆるものは黃白色、鷄卵のみを用ゆるときは黃色なり。日本の盜賊は屋內に入る前脫糞するを例とす刑事在官の好き手掛り也。

曾て「河北新報」に左の事を見たり。

●製糞機の優劣

「人間は到底製糟機ぢや、併し其身分によりて優劣があると言つて、コンなざれ歌を詠んだ者がある、(一)賄は一と二そ知れ下肥に窒素の多きさすが重人、(二)肉食滋養にとむが下肥のききめ第二洋人の糞、(三)たべものゝ便利よきにや町人のふんと尿とはきゝめ第三、(四)月給の多額によりてか中等のくわん吏の糞は第四なりけり、(五)粗しひなば常になしぬる理りや第五に下る農民の糞、とて重人が肥料製造機械の第一等としてある。」

大橋橘黃といへる人予(成蹊)の曾て糞の事を書けるとき同じ紙上に左の事を予の爲めに追加せり玆に厚意を謝す。

(未完)



質疑欄



●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　服部茂登子

問　婦人衛生雜誌第百八十九號（八月分）御揭載の樫田醫學士御演說の衣服防水法は特に有益の事柄と存じ候間藥品の割合塗布法等詳細の儀乍御面倒會誌へ御揭載被下候樣奉願候頓首

尙棟方白世子さま御質問も同樣に付左の答解にて御了承被下度候

答　御質問の調合法は樫田醫學士の嘗て記者の問ひに對し左の如く話されたり

百分中三を含みたる錯酸礬土（即ち硫酸アルミニユーム）に凡そ一日も浸し置くをよしとす尙細說すれば水百グラム中に錯酸礬土「三グラム」を入るゝ割合にして即ち水一合の中へ凡一匁五分を入るゝなり

又百分中三の明礬水と同量の鉛糖水（錯酸と鉛と結合したるもの）とを同じ割合に合せて錯酸礬土水を作れば其價極めて廉なりといふ

但明礬は枯礬即ち燒明礬を用ゆべし何れも三十倍にとかすものとす

問　陰門の烈しく痒ゆくして堪へがたく種々に治療を受くるも治せず如何のものや其原因療法等御敎へ願上候

會員　三十八才の一婦

答　原因には種々ありますから何ンとも判斷は付きませんが陰門の搔痒症には或は濕疹より來るもあり又は子宮內膜炎或は痳毒の排泄に歸するものもありますが此病の原因は糖尿病より來るもの多

く特に神經過敏の婦人に於て著るしく其發生を促すものは清潔の不十分なることゝ頑固なる便秘は大に催進を來すものにして今日迄醫家は種々の藥劑を用ゐたるも効驗なかりしがロオランド氏は「ナフタランを用ゐて」其搔痒を全く消散することを得たること多しと但し或婦人に試みたるときはたしかに輕快はしたれとも全然消散せざりしかば氏は此に假性硼基安息香酸「メチールエステル」を用ゐて卓効を得たりといふ本品は温湯には溶解せざるもアルコール、油類には容易に溶解す之を「ラノリン」軟膏として用ゐるとよしとす又イルデン氏は糖尿病の特効藥として水楊酸ソーダを内服すべしといふ何れも專門の醫師と相談せらるべし

質問者　日本橋　一會員

問　私知人生來冷へ性なるもの今年姙娠いたし毎日鹽温浴を取り雞卵、牛肉、牛乳等の滋養物を取り居り候へども餘り滋養食を取りし結果胎兒は母體の營養過度のため發育過度にて御産の時難産等になる恐れなく候や御教示願上候

答　姙娠したるときは平素の行儀は大に愼まねばなりません餘り身體を惰弱にしますと大に胎兒の居ずまい等に關係して爲めに難産の來ることがありますが母親が滋養物を取りたる爲めに胎兒が育ち過きて難産となる患へはありません胎兒の發育は母體の營養佳良に伴ふもので母體が營養不良でありますと却ツて難産を招く恐れがあるのですから安心して充分の營養を取らるべし然るときは御産のときも産まれる子も樂で又生れた小兒は發育佳良にして健康なるものであります

質問者　下谷の一會員

問　肺病患者と同居して傳染せざる注意法御伺ひ申上候

答　肺病傳染は重に口、呼吸機から傳染しますが要するに尤も危險なるは患者の喀痰で此乾きたる痰にても空氣にまじり塵埃と共に健康者の呼吸機

に入り途に傳染せしめることが多いのですから其豫防には詳しく申せばいろ／＼ありますが先づ第一が咳や唾などを悉く嚴重に消毒し患者の用ゐたるものは家内の人々のものと全然別に取扱ひ天氣のよきときは總て日光にて乾燥せしめる樣になさいそうすれば消毒の効を奏するものです自分さへ體力、强壯であれば容易に傳染するものでないツマリ神經性又は虛弱なる人は尤も注意せねばならぬのであります

質問　大阪　特別會員

問　六才に相成り候男兒別に病氣とても無之候へどもドウモ割合に小ヅクリに見へ色つやもドチラかと申せば餘りよいと申す程ではなきもの故毎朝牛乳一合位を取らせ健康には候へども口耳共に常人に遲れ且物覺へあしく算術の如きは誠にうとく困り居り候右は治するものに候や否や如何なる注意必要にや伺上候

答　貧血の小兒と見受けられます物覺への惡いのは腦の關係でしやうあなたの御子さんの内に腦膜炎などに罹られたものはありませぬか要するに之れは治らぬことはありませんが段々と年を經るに從かひ併し家庭でも常に注意し餘り劇度に教へず徐々に撓みなく教へることにして）記臆力も增して參りますそれには榮養は朝牛乳一合でなく少なくも二三合のませ柔らかき肉食等もさせて充分に體力と腦の機能を誘導するときは治癒することが出來ます併し耳などが惡く聞こえ惡くい爲めてあるといけませぬから耳は一度專門の醫師に診てもらいなさい

質問者　上總の一會員

問　私方の一女兒本年七歲に相成り候もの遊びより歸り來り右眼赤くたゞれ腫れふさかりて物をも見難きに至り候ゆへ直ちに醫師の許に連れ參り候處風眼とのよしに候へども失明する樣の事は無之候や其原因及び治療經過の見込凡そ御鑑定願上度候

答　是れは實際拜見せねば治療の經過等はわかりませぬ風眼とは淋疾毒の眼に入りて起るもので往々盲人となるものが少くありませんが手遅れがなければ思ひの外早く治癒することが出來ます此風眼と云ふ病氣は結膜炎の重きもので傳染しますから患者の手拭や「ハンケチ」には尤も注意せらるべし斯術の大家としては麴町富士見町なる河本博士桐淵博士及井上、須田の諸氏なり

質問者　麴町特別會員

問　小學校に通學し居り候女兒多く靴をはかせ居り候處右の足の手指に魚目のような(たこ)の樣なもの出來初めは小さかりしも追々大きくなり今は靴をはき歩行するときは時に痛み困り居り候簡易なる療法無之候や御教示被下度願上候

答　魚の目や(たこ)などは平素壓を受くる處に出來るもので西洋などでは外見的虛飾のため窮屈なる靴を穿つより起るものが多し是等はザルチル酸石鹸軟膏にて布に貼り付け置けば數日の後ちには自然に剝離してしまいます是尤も痛みなきよき良法です外科的に切り取りてもよいが充分消毒した者で痛みを感ぜざる點迄を徐々に切除するもよろし

質問者　新潟一會員

問　私事平素通じあしく夏季に至りては殊に甚だしく顏赤くのぼせ胸つかへ困り居候何にか御腹の痛まぬ藥有之候へば御教示下されたし

答　婦人には便利の癖のある方多し久しく通利なき爲め逆上も來り又胸もツカヘ苦しきに至るなりサレば蓖麻子油十五グラム位を一杯の水にとかして食後消化終りたる三四時間後に呑まるべし必らず通利あるべし又「カル、ルス泉鹽」など服用も害なくしてよろし

質問者　長野一會員

問　私事平常人並よりは小食の方に候處此一二月以來食事進まず人の申すにも顏の色つやも餘り宜しからずと時に甚だしく空腹を感じ腹中てグウー〳〵と鳴ることあり直ちに食事を取るも忽

ちにして腹張り今は幾分か衰弱を來し候様に覺へ候右は如何なる病症にや凡そ御鑑定願われまじきや伺上候

答　是れは申す迄もなく胃腸に關係した御病氣であることは分りますが併し實地診察せねばよく分りません同じ様な徵候で種々に變化がありますから一様に申上げられないので普通の胃病であれば食物に注意され食後「タカヂアスターゼ」などを服用せらるゝもよろし又或場合には十二指腸蟲の爲めに衰弱することもあり又容易ならざる胃癌などもありて容易く紙上などにては遺憾ながら御回答致しかねますから惡しからず胃病專門醫に……

質問　熊本の一會員

問　私事感冒に罹り其後醫師の診斷を受け候處肺炎カタルと申され候へども右は肺病になるものに候や伺上候

答　肺炎カタルとは字の意儀の通り肺の尖端の侵されたるものであるから所謂肺病の初期である併し必らず眞の肺病になり治らぬ様になるとは限りません大に滋養物を取り新鮮の空氣中に運動をよくすれば治癒することが出來ます此病氣には海岸などへ轉地療養よろし併し海岸の轉地とても滋養物を取るに不便なる處ではいけませぬから其邊はよく御考へて往かれたし

中外彙報

●女子の結核死亡數

結核死亡數は女子より男子に多きを普通とすれど、結核性素因と性との間に特別なる影響は存在せざるに似たり。然れども之の死亡數を年齢を以て區分すれば一定の年齢期に於ては女子に於て著しく結核死亡數の多きを見る。即ち生後第五年迄は男女の差殆ど存せざるも二十五歳迄を算すれば女子の結核死亡數著しく多く、四十歳迄にては尙ほ女子の數多きも、四十歳以上の累計は男子の結核死亡數著しく増加す

るを見る。次に又都會と田舍とに於て其關係を異にするを見る、則ち都會に於ては女子の結核死亡數は男子より少なきを常とす。但し二十歲迄は尙ほ女子の方多し。然るに田舍に於ては女子の結核死亡數四十歲に至るまで著しく男子よりも多數なり。次に兒童の一般死亡數は男兒より女兒の方稍少しく多數なるも結核死亡數は女兒の方著しく多數にして殊に十乃至十五歲に於て然りとし田舍より都會に於て著しとす。春機發動期に於ては女子の結核死亡數は甚しく增加し殊に都會よりも田舍に著し。之の時期の女子に於ては貧血症の來襲あるを以て結核の素因を作る事多きに基くものゝ如し。結婚期の女子結核死亡數は尙ほ增加を呈し多くの都市に於ては最大數に達せり。然れども田舍に於て之の時期の女子結核死亡數が最大なる事あり、之れ蓋し田舍の婦人は產褥等に於ても勞働の免れざる事あるが爲ならんと云ふ

（國家醫學會雜誌）

▲結婚と離婚數　全國に於ける結婚及離婚に就き統計家河合利安氏の調査せられたる處によれば其比例左の如しといふ

全國に於ける結婚百人に付離婚の比例

三十二年	三十三年	三十四年	平均
二二四〇人	一八四二人	一六八〇人	一九二一人

年々減少の傾きあるも平均に於て五分の一は離婚さるゝとは驚くべき一現象ならずや之を外國との比較をなすに左記の如く大懸隔を生ず外國の分は尤も多かりし年紀を撰び日本に於ては尤も最少なりし年紀を撰みたるに現在配偶一萬に付左の如き比較の價値なきほどの最高數となり之を歐洲中尤も離婚に富むと稱する瑞西に對してさへ我邦は殆んど三倍半の多數を占め居れりといふ

伊太利	三十二年	一、三	白耳義	三十一年	七、七
澳太利	三十三年	三、七	和蘭	三十一年	八、五
瑞典	三十三年	四、九	丁抹	三十二年	九、八
匈牙利	三十四年	六、四	佛蘭西	二十九年	一三、四
瑞西	二十九年	二三、八	日本	三十一年の配偶數に三十四年の離婚比例	七九、七

▲小兒の死亡　統計家相原重政氏の統計によるに小兒の死亡は一歳までを最も多しとす一般に就て見れば總ての死亡者の四分の一乃至三分の一は一歳迄の小兒の死亡なり又總死亡者の三分の一乃至殆んど二分の一は一歳乃至五歳までの小兒の死亡なり小兒の死亡時期は一般に五歳迄に及ぶものなり一歳迄の者は哺乳兒の死亡として特に注意を要すべしと

▲玉川水路沿岸の赤痢　水道水源地たる西多摩町檜原村に赤痢蔓延の兆ありて警視廳より係官出張して調査せられたるが同郡砂川村は發病戶數五、患者數十四、內一死亡十三名は現に隔離舍に收容しあり左れど玉川水路は發病家屋より直徑約三丁隔離病舍より約八丁を隔て居れば非常の豪雨にあらざれば右の兩所より惡水の水路に流入する虞なかるべし本年の發生は其主因天候不良に在り初め一名の患者發生せしを隱蔽したるのみならず村內の規約として患者ある時は努めて見舞に行く定めある爲に傳染も速かなりしものなりと村會にて二千五百圓を支出し嚴重に消毒法を勵行する事となりしと

▲戰後の傳染病　戰爭後に於ける傳染病は、殆んど免れ難きもの丶如く、就中恐るべきは虎列剌病なるが、該病は全く戰爭に隨伴するとも云ふべき病にして、何れの戰爭に於ても之れが發生を見ざるはなし然るに今回の戰爭に於ては、露軍中には隨分蔓延したる模樣なれども、幸にして我軍に在ては、眞性と認むべきものは一も發生したるを聞かず、又撤兵の時期も、今や講和の成立を見るに至りたるを以て、理想の好時機とも云ふべき十一二月より、翌年一二月頃には撤兵を行ふ事を得るならん、左ればとて警戒を緩ふする事能はざるは勿論なれど、深く衞生狀態に注意し、以て豫防法を講じたらんには、今回は此恐るべき病毒の蔓延を見るが如き事はなかるべしと、

▲疫痢流行の兆あり　一二年前始めて發生し其後芝麴町等に始て非常の流行を極め多數の幼年者を斃し一時世人を驚かしたる疫痢は幸ひに本年に入り發生

を見ざりしが數日前該病は府下澁谷に發生し同村二百六十二淸三郎三女鹽崎ちよ(三つ)を斃したるより所轄新宿署にては大に驚き直に豫防手配中又々隣村なる千駄ヶ谷字原宿山口某次女せん(九つ)も同病に罹りたる旨屆出ありたるより同署にては一層豫防に盡力中なるが尙多少の流行を見るに至るべき形勢ありて二三の疑はしき患者もありと云ふ因に同病は十中八九幼年者をのみ冒し最初は劇烈の下痢を起し夫より間もなく腦膜炎に似たる症狀を呈し殆んど人事不省に陷らしめ重きは二日間位にて患者を斃すに至ると云へば子女を持てる父兄は大に注意すべき事なり

▲マニラの虎列剌病　最近の報に依ればマニラに於ける虎列剌病は約四週間前發生以來蔓延頗る速かにして現今にては一日十二人乃至十四人の死亡者を出すに至り發生の初には土人の間にのみ限られたるも一週間以前より歐洲中にも往々同病に罹るものあり幸に歐洲人には未だ死亡者を出さず目下嚴重なる交通遮斷法實施されつゝありて今日にては當局者に於ても當初豫期せしより撲滅の稍や困難なるを感じ居れりと云ふ、尙ほ最初同病はマニラより六哩離れたる新兵屯所なるフヲルト・マッキンレーに發生し當局者の嚴重なる防禦策も其効を奏せず遂に今日に至りたるなりと云ふ

●全國の赤痢腸窒扶斯患者

內務省に於て赤痢腸窒扶斯病に付八月十一日より同十五日迄の調査を聞くに赤痢患者一千七百八十一人(內死者三百六十八人)腸窒扶斯患者四百四十人(內死者六十五人)又本年初發以來の累計患者は赤痢一万二千九百二十八人(內死者二千二百六十五人)又腸窒扶斯八千〇二十六人(內死者一千八百三十八人)なりといふ

▲昨今の本所病院　本所松代町なる東京市本所避病院の實況に就てはペスト發生以來屢々記載する所ありしが尙ほペスト患者も暫く途絕えたる昨今の模樣と收容患者の經過を報ぜんに初發より收容したる患

者は眞症八名疑似一名にして内六名は死亡し三名は快復したり其氏名を記るせば

死亡者

深川區蛤町一丁目　中久喜長十郎(十二)
五月十日入院　同日死亡
同區古石場町　荒川謙之助(五十六)
六月七日入院　六月八日死亡
同區黑江町　西村久次郎(十七)
七月十九日入院　同日死亡
本所區林町三丁目　成井ハツ(十)
七月二十日入院　同日死亡
同　小倉ツネ(九)
七月二十日入院　同廿三日死亡

快復者

深川區古場町　田中コシ(九)
五月廿七日入院　七月廿一日退院
同區黑江町　黑田六太郎(三十三)
五月廿九日入院　八月十二日退院
同區萬年町二丁目　高森常三(十六)
六月十七日入院

快復者の内常三は患部の創口未だ全治に至らず且つ膿を漏らすに付ゐ目下快復室に在りて治療中なるよし一人の注意患者は深川區大島町田中ツノ(三十一)にして五月三十一日注意患者として收容されし者なるが敗血膿毒症にて七月二十一日同院にて死亡したり左れば目下同院の入院者は高森常三唯一人のみなれど尚ほ醫員三名、事務員二名、看護婦三名にて警戒し居れりと

▲陸軍工場衛生の改善　陸軍諸工場の工場衛生に關し、陸軍省にては全國各工場に就き、實地調査を行ふに決し、東京にては安藤一等軍醫、近藤一等藥劑官以下見習軍醫七名を委員に任命し、大阪方面にては、山本二等軍醫正委員長となり、目下夫々調査中なるが、右調査に基く各委員の改良意見は、來月中旬を以て、蒐集せらるる筈なるも、時局上工場の根本的改築は困難なる事實もあれば、差當り工場の換氣法諸材料の中毒豫防法、並に危險病者の罹発等を行ふに止むるならんと云ふ

▲盲人保護と内務省　内務省衛生局にては盲人保護の件に就き種々調査中なるが差當り各府縣に命じて鍼按業者の狀態を調査せしめ之に依りて其保護の方

針を定むる由にて殊に眼明女按摩業者に注意して其狀態を精査する筈なりと今當局に於て調査したる數を聞くに左の如し

▲全國　盲者二萬一千人　眼明一萬三千人　內女按摩三千人　鍼鍼業七百人

▲東京　盲者一千人　眼明九百人　內女二百餘名

▲淸韓人の同仁會贊助　同仁會の事業を贊助し其後大隈伯爵又は同會事務所へ寄附金を申込める淸韓兩國人中千圓以上の者八名、百圓以上の者四十餘名ありて是等熱心家へは同會より金製徽章を贈る筈にて目下玉寶堂に於て製造中なるが內地に於ける寄附金者も近來大に增加したれば事業擴張の目的も着々進行するを得べしと云ふ

▲理想的公會堂　大日本私立衛生會にては東京市中に完全なる公會堂なきを遺憾とし今回數萬圓を投じ同會に於て理想的公會堂を建設のことに內定し過般來準備中なりとか

▲米國の流行病に就て　最近の伯林電報はニユーオルレアン市に、黃熱の猖獗を極めつヽあるを報じたりしが、同市は米國ルイジヤナ洲の大市なるが、其發生は既に二三ケ月以前にあり、當時は左迄蔓延の模樣もなかりしが、追々其勢を强め去月廿八日同市よりの通信を見るに、同日新患者二十一人、死亡者三人、發生以來既に患者二百二十七人死亡者四十七人を出したりしといふ、同病に犯さるヽは多くは下層勞働者の類にして、米國本土の者は少なく、概ね同地新來の以太利人なりといふ、尙ほ翌二十九日に至り別に新患者二十九、死亡七を出したりといへば今日迄此比例を以て進みたりとすれば其猖獗の度の如何に甚だしきかを知るに足る可し

▲赤十字社々員の增加　開戰後日本赤十字社に對し內外人の入社又は寄附を申込むもの非常に多きを加へたるか去る三月末の社員數は百一萬二千四百六十四人にして其後每月少くも九千人より一萬人內外の申込あり目下は百四萬以上に達したりと

▲消化器病流行の傾向　昨今氣候不順の結果消化器傳染病たる虎列剌赤痢窒扶私等各地方を通じ蔓延

の傾向あるを以て該患者發見せば其流行部落人民に對し家用水に對し充分の注意を拂はざる可からず其理由は該病毒は水に關係を有し初期に於て多くは水に病毒の入り居るを以てなり故に病毒の入り居るべき疑ある井戸河水等は其使用を停止し其部落數十戸若くは數百に關係する家用水は其使用停止期間公費を以て水道水又は煮沸水等を供給し各個人に對し無害安全の飲料水使用を得せしめ以て之れが豫防を爲し又其家用水供給の義務は傳染病豫防法に依り市町村吏員は知事の認可を得て市町村に負擔せしむるの方法を取り病毒を撲滅する樣適當の措置を取るやうにすべし云々と當局者は語れり

▲クレゾール水の消毒力　改正傳染病豫防法に據れば從來の法定消毒藥即ち石炭酸水の外新にクレゾール水を追加し昨今傳染病流行地に於て實施中なるがクレゾール水の消毒効力及び用法左の如し

クレゾール水（クレゾール石鹼液六分水九十四分は

クレゾール石鹼液（粗製クレゾール及加里石鹼各等分より成るものにして不日日本藥局方に追加せらるゝ筈）六分に水九十四分を加へ能く攪拌して製するものにして百分中三分の粗製クレゾールを含む其の消毒力は石炭酸水（二十倍）と同等なり然のみならず加里石鹼を混有するを以て手足身體其他脂垢等にて汚れたる物品又は咯痰等の消毒に適す依て法定消毒藥中に加へたり其の應用幷に用量は凡て石炭酸水に準ずべきものとす尚ほクレゾール水を製するにはクレゾール石鹼液六分に定量の水を加ふべし

クレゾール水は各種物件の消毒に適し其用量及び應用は石炭酸水に準ずべきものなり

▲遼東同仁醫院の狀況　清國土民を施療する爲め遼東守備軍管區內に開設せる同仁醫院の職員は同地兵站病院勤務の第四十二臨時班速水醫員以下看護人長一名看護人四名にて治療に從事し居りしが結果頗る良好なるを以て外來患者漸次其數を增し目下日々五六十名に上りたる由其多くは男子にして女子は少く概して下等貧民なれども追々相當の資產を有するも

の來診を乞ふに至れりと云ふ

▲赤十字鳳凰城委員部の景況　鳳凰城に於ける現在社員の總數は四百七十八人にして內特別社員八正社員四百七十八人此醵金一萬三千百九十五圓餘篤志を以て金品を寄附せられたる慈惠員は四百五十八人にして此金額一千五百三十七圓餘なりしが同所に於て本年五月三十日臨時救護所を開き傷病及難民を救濟したる者二百十人あり內男百七十六人女三十四人なりしと云ふ

▲長屋建築規則　警視廳に於ては管內に於ける下層市民の衛生保險惡疫豫防等の爲め長屋建築取締規則を制定するとに決し該案は既に過日防疫評議員會にも諮問し又市當局者に徵せし意見等も結了せしに付不日廳令を發布すべしといふ

▲看護婦試驗の施行　東京府知事は昨日告示第八十七號を以て來十一月六日より同廳に於て看護婦試驗を施行する旨及志願者は左記事項に依り出願すべき旨告示したり

一、願書は本年十月一日より同月三十一日迄に當廳に差出すべし

二、願書并之に添付すべき書類は本人自ら作成すべし

三、願書にては本人の寫眞一葉を添付すべし但し願出期日前一ヶ月以內に撮影したるものに限る

▲工場衛生の實地調查　內務省衛生局に於ては工場衛生の實況を調查することに決定し過般來囑托技師東京帝國大學教授橫田千代之助氏を京都大阪兵庫福岡其他の各地方に出張せしめ調查中なりと云ふ

▲窒扶斯の新療法　此頃亞米利加の衛生當局者は、窒扶斯患者に非常に多量の水を與へて治療する新方法を行つて居ると云ふことである、て其水を與へるのには、時間を定めて處方された量を規則正しく飲用さする傍ら又氷を患者の枕許に備へて置いて隨意に飲みたくなつた時は飲ますると云ふ方法を取つて居るが、其結果は甚だ好良て、他の治療法の死亡率が百分の十に對して、此方法によつたものは百分の

五て、又發熱時間は別に短縮されないが、再發の割合は減少して平均他の百分の十一に對し、百分の八てあつたと云ふことである、驚く可きは一日の飲用水量の大なることて、或患者の如きは牛乳だとか其他の營養物は通例にやつて、然も日々四升餘を飲んだとのことてある。（日本新聞）

▲同仁會の醫學校設立計畫　同仁會にては韓國大邱及其他數ケ所に於て目下大病院建築中なるが尙ほ今回本邦在留の淸韓留學生の便宜を圖る爲め早稻田大隈伯邸内に同仁醫學專門學校を設立し專ら斯學を擴張せんとて企圖中なりと云ふ

▲同仁會大阪支部の盛況　同仁會は夙に大阪支部を設置したるが寄附金の申込頗ぶる多く去廿五日迄已に一萬圓に達したりと

▲三宅島赤痢病の沈靜　三宅島の赤痢病は最早沈靜に歸せしを以て豫て出張中の警察醫東京府技手等は歸京せりと

▲國民大會の大珍事　日比谷公園内に於て去る五日開會の同會は官民の衝突より大珍事となり果ては内相官邸の一部を燒き全都の交番所を燒く等由々しき大事となり從て負傷者も續出し實に悲慘の狀況を呈せるも危險豫防の機關もなく赤十字社も權限の關係より支部の責任に歸し支部は其機を失し某辯護士の如きは見兼ねて職掌以外に同氏の書生を督して救護班の資格て官民共に救護したりといふ如何にも殊勝なる心懸けとこそ云ふべけれ

因に記す日本赤十字社東京支部は本月五日以來の變事に際し創傷を受けたる爲の臨時救護所を赤坂表町二丁目十八番地共愛醫院内に開設し入院又は來診何れにも無料にて需に應ずべしといふ

●家庭看護法講習會　三島博士知人の設立にかゝる詳しくは廣告に

●リチャードリン夫人歸國
滿心の熱情を我傷病者につくして今や歸國せらる
吾人は
滿腔の感謝を仝夫人に呈して止まざる
なり

食物調理法

●南瓜の胡麻和へ

先づ南瓜の皮をむき胡麻よごしの如く薄り切り鹽にてもみ後よく洗ひて別に黒胡麻を煎り摺鉢にてよく摺り酢とさたうとを入れて又よく摺り南瓜を小皿に盛り胡麻酢をかけて出す大なる南瓜は總菜にし若き中は上等の料理にあしろうも可なり・

●鱸の蓼酢味噌

鱸のこけを去り腸を取り水にて洗ひ三枚におろし皮付のまゝ刺身につくりまな板の上にならべ置き布巾をかけその上より沸湯をかけ而して又冷水をかけて後布巾をとり去り良き茄子の皮をむき堅て切りにして湯でゝ少ししぼり堅二分位の厚に切りめうがの子を薄く刻み水に浸して水氣を去り各々小皿に盛りわけ蓼酢味噌をも盛りて出すたで酢味噌のつくり方は蓼の葉をよく洗ひ摺鉢にてすり味噌をも共によくスり酢と砂糖を入れて又すり裏ごしにするなり之れはあまく加減すべし

大日本婦人衛生會記事

本會記事

●總裁宮殿上の御通過　去月二十八日本會總裁宮殿下には上州伊香保温泉に御入浴の御歸途高崎停車場御通過の際高崎支會役員及會員の多數は御見送申上げしため殿下より賢き御沙汰を蒙りたりと濱尾副會長より傳へられたり

●本會の例會期日　本年は暑氣甚だ強からずして今や秋冷を覺ゆるの候となりたれば來十月七日第一土曜日を期し例により神田區一ッ橋通女子職業學校に於て例會を開く演題、講師等追而報知すべし



高崎支會報告

●第三十五例會

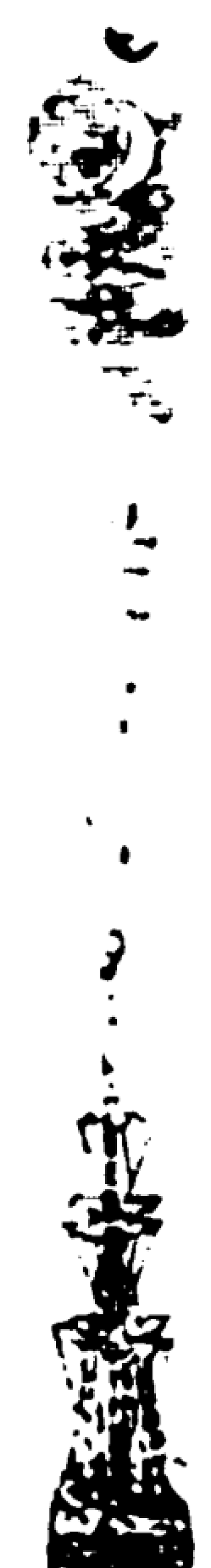
八月十八日(金曜)第三十五例會當市々會議事堂に開く午前九時三十分星野會長開會を告ぐ土谷特賛には去る七月東京本庄病院にて實驗せし「ペスト」患者三名に關する實驗談及び該病者患家の消毒實驗談あり當日の講師群馬縣衛生課長技師澄川議三郎君登壇傳染病と云ふ題にて其種類の多數なると就中法律にて取締りを爲すもの八種其他數種あり病源菌各種に就き懇篤述べられ該病原菌の所在發生等の詳細と續て夫等に對する消毒方法を述べ最後に赤痢病に就き充分詳述せらる同君は細菌學專門家にして且つ雄辯家なれば會員諸姉に感動を與へたり閉會を告げしは十一時三十分なり○此日炎熱盛なるにも係らず會員の出席者非常に多かりし同日出席の役員は

星野、相川、齋藤、三橋、稲垣、相澤

●第三十六例會

九月十日(日曜)第三十六例會を高等小學校内に開く午前十時星野會長開會を告ぐ當日講師產科婦人科小見科專門醫藤崎清太郎君登壇「妊娠と水腫の話」と云ふ題にて其原因六種に區別し第一壓迫的水腫、第二腎臓炎、第三脚氣、第四心臓病、第五貧血、第六大病後の衰弱等なり第一の水腫は敢て意に介するに足らず分娩すれば治癒するものなり其他五種は輕忽に看過すべからざる所以を説き各水腫の鑑識法等懇篤に説明せられ尚自家實驗談等を詳述せられたり閉會を告げしは十一時なり此日出席の役員は

星野　相川　高草木　三橋　齋藤



●新潟支會の海水浴場

本年も例年の通り當支會と市衛生會と聯合の上七月十五日より本月十二日迄當市寄居濱に於て海水浴場を開設したる處逐年海水浴の効能を認識する者增加せるとて日々の入浴者頗る多く又身體薄弱等の爲め海水浴に適せざる者は仝浴場に設置しある溫湯に

入浴するの便あるが爲め運動がてら來場入浴する者尠なからず兎に角當市の有益なる事業として一般人士に認められたるは喜ぶべき現象と云ふべし云々



本會入會者

○事務所へ申込

●本郷區西片町十番地ホノ十九　通常會員　東　くめ子

○大學諏訪なみ子紹介

●青森縣三戸郡三戸町　通常會員　松尾　かね子

○麹町區杉山歌子紹介

●麹町區永田町二ノ二十　通常會員　熊野　清子

○尾道吉富志茂子紹介

●廣島縣尾道市女子高等小學校内　通常會員　諏澤　共代子

新潟支會入會

○澁川幹事紹介

●新潟市上旭町　通常會員　山本　かね子

▲姓變更

●若川すみ子改　澤邊　すみ子

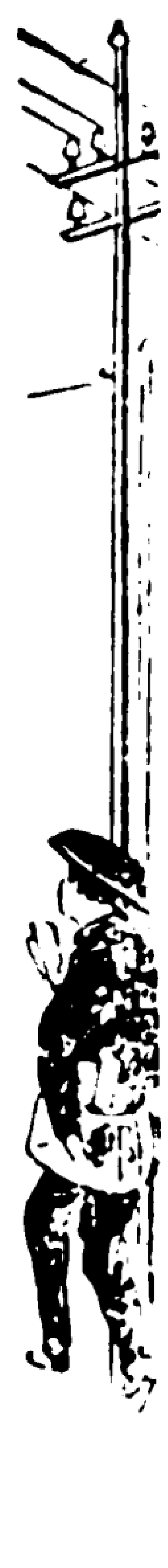
●佐藤よし子改　鵜飼　よし子

弔詞

米澤支會中研會員　蓼沼むめ子の君には兼て御病氣の處去八月卅一日死去せられたりと

本會は謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衛生會



轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入御一報相願候

●日本橋區濱町三ノ六へ　阿部　光子

●埼玉縣浦和町へ　武田　きく子

●神田區今川小路一ノ一へ　成田　松子

●牛込區大久保余丁町百十七へ　相良　濱子

●本郷區本郷五ノ三十九へ　庭井　靜子

●千葉縣千葉町千七十八へ　高木　俊子

●本郷區駒込千駄木町四十七へ　駒杵みはる子

●仙臺市本荒町へ　楢　高子

●長野縣上田町常川町へ　佐藤　たま子

●亞米利加桑港セコンド町五百三十一へ　藤田　さだ子

●秋田縣北秋田郡阿仁合町銀山百五十へ　松下貞子
●日本橋區鍋島町一ノ三　椋方百世子
●長門國下關市大字竹崎町一九九へ　矢田やす子
●鳥取市栗谷町四二　河本梅野子
●牛込區市谷本村町一五　鹿野留子



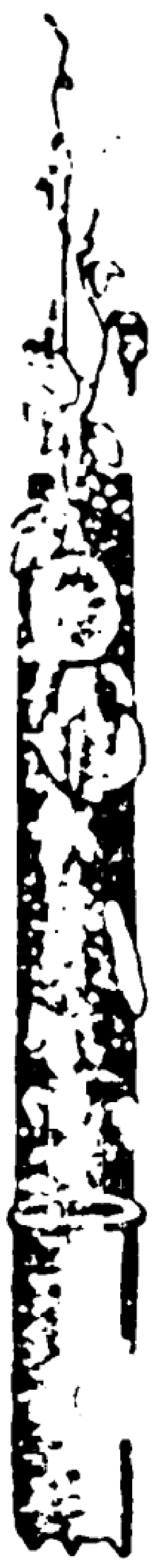
新刊寄送書批評

シーエイッチヘート原著　吉川潤二郎譯述

人生の行路　第二　壹冊　定價金三十錢

發行所東京本郷駒込西片町十番地　内外出版協會

本書は品性の修養を基礎として人生缺くべからざる訓戒を二十ケ條に分類して網羅したるものなれば青年男女の興奮劑ともなり慰安改善ともなる譯文簡明なればたしかに一讀三嘆の價値ありと云ふべし



●交換寄贈雜誌（八月分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ廿一　日本赤十字發行所
●日本衛生週報　甲府市佐渡町十五　日本衛生週報社
●日本婦人　府下澁谷村御料理地内　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳内　新潟縣衛生會
●日本橋區衛生協會雜誌　日本橋區永久河岸八號　日本橋區衛生協會
●日本皮革時報　本所區表町五十七　益世社
●新潟日報　新潟市西堀通三番町九八　新潟日報社
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京小間化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品卸商事務所
●をんな　麹町區下二番町三十七　大日本女學會
●大坂タイムス　大阪北町天神橋筋六丁目　大阪タイムス社
●家庭新聞　熊本市内坪井町一五八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區元園町一ノ廿七　由分社
●家庭　東京巣鴨　家庭社
●家庭乃栞　新潟縣女子師範學校内　新潟縣女子教育會
●家庭　福岡市舛町十七　家庭新聞社
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●體育　府下荏原郡大井村字北濱川　日本體育會
●通俗衛生　大阪西區土佐堀通三丁目　大阪私立衛生會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪西區江戸堀下通　藥石新報社
●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
●藥林　府下澁谷村大字谷山南町七ノ三　藥林社

● 經濟新報　麴町區永田町二ノ七十三　經濟新報編輯部
● 婦人世界　大阪南區末吉橋通四丁目　浪華婦人會
● 婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
● 婦人新報　赤坂區檜坂町五　婦人新報社
● 婦人子とも　本郷區女子高等師範學校内　フレーベル會
● 婦人　神戸市三の宮町一丁目　婦人協會
● 福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
● 國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
● 工手の母　大阪北區西野田新家四の町　工手の母新聞社
● 交通世界　埼玉縣浦和町三九三五　交通協會
● 衛生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衛生會
● 越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
● 英學生　神田區北甲賀町十　東四社
● 衛生新報　下谷區池の端仲町十九　衛生新報社
● 愛・國婦人　麴町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
● あかつき　埼玉縣越谷町一四九　社
● 産科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　産科婦人科學會
● 草樂新聞　大阪南區心斎橋筋　草樂新聞社
● 産科雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本産科婦協會
● 埼玉衛生新誌　埼玉縣浦和町二三五　埼玉衛生新誌社
● 朝行會叢誌　芝區三田網町一　朝行會叢誌出版部
● 兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
● 人生の行跡　本郷區西片町十　内外出版協會
● 廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
● 青春　下谷區谷中初音町三丁目　青春社



◉家庭看病法講習會趣意書

人として終世病なきことを得ず病あれば必ず之を治するの法あり不治の病と云へども治法宜しきを得るときは瀕死に一生を救ひ得ること尠からず病を治するものは醫師の他に求むること能はず醫師自らは施治の患者の多少或は他の重病により終日患者に接近すること能はず故に醫師の施術を介補する者を要するに至る此際最も必要なるは看護人なり看護人は終日患者の枕邊にありて病狀を觀察し醫師の命により患者の看護に從事し醫師をして其任務を完ふせしむるの技能を具へざる可からず而して女子の特性は此目的に最も適合するものなり

現時社會の婦女を見るに多くは種々の娯樂に耽り或は身體の安逸を欲す此等の徒は家内に患者の發生するときは遽に周章狼狽し醫師看護婦をして奔命に勞せしむるに至る要するに家婦等の患者に對する看護法の發達なき結果なり若し子女の家庭にありて修學の餘暇少くも此術の綱要を修了したらんには例之家内に如何なる患者の發生することあるも看護婦の手を借らざれば患者を處置すること能はざるが如き患なく又看護婦を雇用するにも其取扱の適否如何を監督することを得醫師の治療をして完全ならしめ患者に對し甚に從るの利益なきものなり

吾等茲に見る處あり普通良家の子女にして日々家事修業其他の課程の爲に更に看病法を修學する遑なき者の爲めに諸家の贊成を得本會を設立し各學識に富たる専門の醫家を聘して講師となし諸科を講習せしめんとす冀くは大方の諸君本會の趣旨を諒し賛助の榮を與へられんことを

明治三十八年 四月

家庭看病法講習會發起人

長谷川なつ子
桁浦茂登子
西川よし子
沼野俊子
內田京子

家庭看病法講習會規則

第一、十五年以上ノ女子ハ何人タリトモ講習生タルコトヲ得
第二、講習期限ハ三ケ月トス
第三、講習ハ毎週二回（火曜・金曜）午後三時ヨリ五時マデ
第四、講習結了ノ上ハ講習證ヲ授ク
第五、中途入會者ハ次回講習ノ一部ヘ出席スルコトヲ得
第六、講習料金四圓トス但シ之四圓ヲ二回ニ分納スルモ差支ナシ
第七、中途退會者ニハ既納ノ講習料ヲ返付セズ
第八、大祭日ハ休講ノ事
第九、本會事務所ヲ京橋區築地三丁目築地女學校ニ置ク

開講 九月廿二日
申込 九月廿日限リ（事務所宛）

看病法講習科目次

○看病法ノ注意
○病室 病室ノ選定、換氣法、暖室法、採光、大小、掃除、裝飾、臥床等
○經久病者ノ看護法 患者ノ位置轉換、患者ノ清潔法、便通、排泄其他ノ注意
○醫療的看護法通則 服藥、吸入、灌腸、水藥及塗布藥ノ使用法、水蛭及芥子泥用法、罨法、浴法、按摩術等
○外科的衞生法 消毒法、防腐法、綳帶術
○發熱病者ノ看護法 體溫、脈搏、呼吸ノ檢法
○傳染病ノ看護、豫防及消毒
○救急法 外傷、出血、昏倒、假死、溺死、中毒、救急法
○健兒及ビ病兒ノ看護法（健者及ビ病者ノ飲食物）婦人科病看護法、姙娠中及分娩前後ノ攝生法（附解剖及生理學大要）

出席講師
小兒科 沼野季太郎君
內科 樋口芳太郎君
外科醫學士 林 曄君
婦人科 內田六雄君
消化器病科ドクトル 鈴木圭計君

課外講師
醫學博士 三島通良君
醫學士 山根吉君
醫學士 山田 戰君

第十九世紀戰疫小史

全一册

定價金拾貳錢
郵稅無料郵劵
代用一割増一
錢切手に限る

戰役の一たび起るや悪疫の之に伴はざるはなし其甚はだしきに至りては砲彈劍尖に斃る、軍人よりも寧ろ其悪疫の爲めに生命を殞すもの却て多きの悲境を呈す豈に寒心すべきことならずや本書は醫學士柴山五郎作氏が本會の爲めに第十九世紀中世界に於る重もなる戰役に伴ふ悪疫の經歷統計等を譯述し會員の參考に供せられたるものにして今次の日露戰爭に伴はれんとする戰疫に對し一大警鐘として更に世耳を聳たてしむる爲め茲に之を發售す請ふ其反響を聞け

京橋區宗十郎町七番地
大日本私立衛生會

長與衛生文庫

埼玉衛生新誌は　紙質善良刷高多く賣行廣く信用厚し

埼玉衛生新誌は　論評平直、文辭明白、實益と趣味とを兼ぬ

埼玉衛生新誌は　每號六拾頁にて一册拾錢の廉價なり

埼玉衛生新誌は　廣告の效能尤も顯著なり

埼玉衛生新誌は　一頁廣告料金僅に參圓なり

埼玉衛生新誌は　代議士、縣議士、縣會議員醫士其他官民多數の顧問を有す

埼玉縣浦和町　埼玉衛生新誌社

主筆　劒南　島田銑次郎

私立大日本婦人衛生會
山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上衣及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會
宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス 上衣及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會
米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第三日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは 役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員の質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に揭げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

第二十三回産科婦人科學講習

科目　産科手術學及婦人科診講す

時日　十一月廿日より十二月廿日まで毎日午後六時より八時まで

資格　醫術開業免狀所有者

右廣告す

規則書御望みの人は郵税二錢御送りのこと

東京市日本橋區濱町三丁目七番地

産科
婦人科　楠田病院教室

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり。女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地

佃速記事務所

電話番町四十八番

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

▲肺結核療法（總ての療法悉集めあり）　貳圓四拾五錢

▲肺結核豫防法（豫防攝生の方法を示す）　參錢郵券拾八枚

▲産婆學（再版）（教授受驗の目的に適す）　同　參拾枚

▲ペスト（黒死病）（原因徴候及豫防法を示す）　同　九枚

▲肥滿の療法（ふとりたる人やせる法）　同　九枚

▲救急法（怪我の急病應急の手當）　同　拾貳枚

▲衛生寶典（内科諸病を一々說明す）　同　廿六枚

（皆郵税共）

東京市本郷區春木町貳丁目　半田屋

東京湯島天神町貳丁目卅六　鳳文堂

東京市神田區鍛冶町四番地　誠之堂

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目
（電話本局千六百六番）

診察時間　午前九時ヨリ午後五時迄

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號
七十錢(黑塗箱入送費九錢)
六十錢(桐箱入送費六錢)

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する塲合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雑誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込築土八幡町郵便局)宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁廿二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中徳三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

明治三十八年九月十七日印刷
仝年九月二十日發行
婦人衛生雑誌第百九十號
(毎月一回二十日發行)

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場